

早稻田學報

大正五年 第貳百五十九號 九月十日發行 每月一十號發行

本號目次

校報

講師囑託 露西亞語科新設 校外教育部夏期講習會
早稻田工手學校始業式
田中理事の青森行

面影

講師 渡米野球團監督 河野安通志氏

校友會報

早稻田俱樂部消息 戊申俱樂部例會 宇都宮 山梨縣 旭川 秋田市 富山縣 和歌山 香川縣 高知 鳥取縣 東伯郡 但馬 熊本 三日會 鹿兒島 各校友會

南部臺灣稻門會發起

校友動靜

學會

佛教教友會 如月會

學生會合

法科謝恩會 法科卒業生より 商科卒業生より 英語會

運動

水泳部の閉鎖 野球團渡米日誌

雜報

大日本青年修養團記事

銀行學者招待懇談會 米國大學教授の訪問 吉江教授の出發 早稻田購買組合消息 地方生活の研究資料蒐集

通信

米國便り 其他數件

東京牛込

早稻田大學校友會

電話號碼三五〇〇番

振替 東京 八八九六 金口座

校 報

●講師囑託 本學年より左の講師を増聘し、頭書の學科擔任を囑託せり。

民法 遊佐 慶夫

シニクスビーヤ研究

早稲田大學 文學士 横山 有策

近代外交論

マススター、オプ、アーツ 島谷 亮輔

●露西亞語科新設

本學年より第二外國語として露西亞語科を新設し、大學部各科學生をして聽講せしむることとなり、第一學年より開始する筈なるが、擔任講師は八杉貞利氏外一名なり。

●工手學校始業式

附屬早稲田工手學校は八月廿一日午後六時第十二回始業式を舉行せるが、校長徳永博士不在に付理事鹽澤博士代りて一場の訓示あり。翌廿二日より授業を開始せり。

●校外中央夏期講習會

豫定の通り七月廿日より十日間開催の夏期講習會は、學長天野博士の訓示に始まり、谷津博士の人類及其進化、井上博士の戦局と列國經濟界、廿三日午後には講習會員一同、大隈新侯爵邸參觀後寄宿舎に有志茶話會を開きたり。來會者約二百、中學講義編輯出品の各種免狀、賞狀、過去十年間掲載の繪畫、寫眞、標本、手本、同改會支部寫眞原稿その他の陳列を一覽し、直に開會を宣す。矢澤寄宿舎長先づ立つて開會の辭を述べ、それより青年講習錄

編輯主任岸格堂氏の青年團創設の旨趣、講師兼中學講義編輯主任土屋極東氏の、通信教育の發達(講義錄に就て)に關する演説あり、次に一同茶菓を喫しつ、北海道より來會の小川氏、臺灣より來會の中内氏が講習員諸君を代表してせられたる演説に耳を傾く、最後に編輯長青柳教授は、支那時局難感と題して、一時間半に亘る演説をせられたり。翌廿四日午後五時より現文相高田博士の世界大戦争と教育に關する一場の訓示あり。それより浮田博士の國際政局の將來、市村博士の船舶の進歩と海商法、中島教授の最近教育思潮と教育の實際、坪内講師の歐米最近の劇壇、高野氏の小賣商店の經營と實務、山本教授の化學工業と電氣等、何れも多大の知識を約四百の會員に傳へ、最後に講習證明書を希望者に交付し、近來になき盛況にて廿九日閉會せり。

●田中(穂積)理事の青森行

理事田中博士は青森市に於ける講演會及校友大會に臨席の爲め學生課主任望月嘉三郎氏同伴八月八日午後九時上野出發、翌九日午後二時淺蟲まで出迎への校友北山一郎、和田喜太郎兩氏と同車浦町驛下車知事代理福永理事官、工藤市長及校友多數の出迎を受け、弘前より先着の子爵田尻博士投宿の鹽谷旅館本店に投ず。小憩の後、同地商業會議所及び校友會主催の橋本小學校に於ける

▲講演會に臨み子爵田尻博士講演の後を受けて『興國の要義』と題し、聽衆約四百名に對し、約二時間に亘るの講演あり。終つて六時より同市公會堂に開催の縣教育會、商業會議所及び校友主催の

▲官民聯合歡迎會に臨む。會は田尻、田中

兩博士を主賓に、郡市の校長、會議所、及校友側の人々、市内の有力者等三百七十餘名參會し先づ工藤市長の兩博士歡迎辭ありて兩博士の爲に乾杯、衆之に和し、次いで兩博士交、起つて謝辭を述べられ、主客歡を盡して八時散會せり。翌十日田中理事は望月主任同伴午前九時より校友北山一郎、和田喜太郎、山田金次郎諸氏、及び日清生命の東北支社長高柳勝治氏等の案内にて小蒸汽船に搭じ、青森築港を視察しながら淺蟲溫泉に赴き、一浴の後、午後一時出發青森に引返し、尋常師範學校に於ける縣教育會主催の

▲講演會に臨み、聽衆約五百名に對し、子

爵田尻博士講演の後を受けて『歐洲大戰の教訓』と題する講演あり。終つて市長工藤卓爾氏の招待に依り、同市合浦公園不老亭に於いて茶菓の饗應を享け、後午後六時より金森樓に開催の

▲校友大會に臨む。會は子爵田尻博士、田

中博士、望月主任を主賓に第六十三銀行取締役迫田七郎・青森縣知事小濱松次郎・青森市長工藤卓爾・青森商業會議所會頭樋口喜輔・青森中學校々長岩崎雄吉・縣外校友日清生命保險會社東北支社長高柳勝治・同社募集部長久保義美諸氏の外會員

青森市回漕店伊東武次郎・下北今村武夫・青森市書籍商長谷川桃太郎・同陸奥日報社長西田源藏・東郡縣會議員奥崎甚吉・青森市雜貨商和田喜太郎・弘前市實業家吉崎實雄・同津輕銀行頭取高谷貞次郎・南郡田中初太郎・中郡農業高谷英城・青森市釀造業村本喜四郎・南郡林橋栽培宇野清一郎・青森市東

奥日報記者工藤規・同青森縣屬工藤茂久・同東奥日報記者山田金次郎・三戸郡山浦武夫・青森市五十九銀行員山田敬一・同茶商山本敬三・中郡縣會議員藤田重太郎・青森市商業會議所副會頭藤林源右衛門・北郡阿部誠一郎・青森市青森中學校教諭明田三太・同東津輕郡々長酒井隆吉・同農工銀行員齋藤五郎・同實業木村寅雄・同青浦商會社長縣會議員北山一郎・弘前市五十九銀行員木村知義・青森市東奥日報記者木村元三郎・南郡縣會議員幸田健作・青森市陸奥日報記者三上保眞の諸氏出席し、先づ主催地幹事北山一郎、座長となりて、今回御相談申上げたきは

一、從來弘前に在りし支部を青森に移すと二、規約認定のこと三、幹事改選の事

以上三項なるが、さて本會は去る四十三年副島博士及杉山先生來縣の際弘前に開きたる以來開會せず、今日に至りしが、今回當地に第二回を開けるを機とし、縣の中心たる當市に支部を置かば、母校との連絡其他の事に便宜ならんと思ひて第一項を提案せりとて、併せて弘前との交渉經過を報告せり。然るに、當日の大會には弘前市側の校友に事故を生じ、出席を取消し來りたれば、結局中郡藤田氏の意見にて、弘前市校友と同一應交渉し、異議なき場合に決することとし、右交渉を同氏に委任したり。次に此の點を除くの外左の規約を認定可決し、次に幹事は弘前地方二名青森地方二名、八戸地方一名とし、大會毎に改選すべく、今回は弘前及青森側は地方より幹事を推薦せしめ、八戸地方は當日出席校友山浦武夫氏を大會にて推薦決定したり。更に北山幹事より母校研究室建築資金寄附に關し校友へ

諸る所あり。後ち田尻、田中兩先生及望月主任へ贈れる記念品に付承諾を求めたるが、記念品は津輕漆器の御膳にて東京へ輸送するに決せり。尙ほ當夜校友大會の名義を以て大隈總長へ宛て「御降爵を祝す」又た國府津滯在中の高田名譽學長へ宛て「御叙勳を祝す」との電報を發したり。

然るに在京校友東京朝日新聞記者兼田秀雄氏より「校友大會を祝す」弘前市校友吉崎實雄氏より「行かれぬ大會を祝す」との祝電を寄せられたれば、一同へ紹介せり。

右終つて八時大廣間に移り着席。中西寫眞師をして記念撮影せしめ、やがて開宴するや、幹事北山一郎氏起つて久し振りにて兩先生にお目にかゝりし歡喜を述べ、殊に兩先生の益々元氣旺盛なるを祝し、而して校友會は相互の親睦を謀り本部との連絡を取り、母校の爲めに盡力し、併せて社會公共の爲めに貢獻せんことを目的とするものにして、今後一層此の目的の爲めに努力せんとすとして、兩先生の指導を仰ぎ、尙ほ小濱知事及其他の來賓並に會員の來會を謝したり。右に對し、田尻博士は溫顔に微笑を湛へつ、起つて唯今吾等の元氣旺盛なるを祝されたるも、吾等より見れば諸君が如何にも老成せられて、地方及國家の爲め貢獻せられつ、あるを見て喜ぶ。今夕は旅館も近き事なれば、ユル／＼頂戴せんと述べられしが、座は忽ち春海の如く和氣洋洋として流る、思ひあり。次いで田中博士は、挨拶に兼ねて

此の度は本大學青森縣校友大會を開くに付誰か出て來よとの請求あり、予其の命を受けて、今夕親しく舊知の同窓諸君と面晤す

るは愉快に堪へざるなり。例へば久し振りにて故郷の地を踏むが如く感ぜらる。去れば先づ第一に母校の近況を述べ報告すべき所なれども、學報にて時々申上げたれば、別に只今述ぶべき程のものなし、唯だ學報に詳かならざるものにして

諸君へ報告申上け度は、昨年本大學が天下に公表せる御大典紀念事業の事也。元來早稲田大學は、第二期擴張に際し、多額の恩賜金を拜し、今上陛下未だ東宮に在らせられし時行啓遊ばされしことあり。皇室の恩命最も大なるものあれば、昨年ははれし曠古の御大典を紀念するは臣子の正に爲すべき所なり。依て初め三十萬圓の資金を募り、研究室の設備を爲さんと着手したり。米國私立大學一ヶ年の歳入五六百萬圓なれば、三十萬圓を以て研究室設備の計畫を爲すが如き、外國に聞えて恥しき次第なるも、出來ぬ事に着手するも仕様なければ、單に焦眉の急を凌がんとするに在りしに、天下の同情糾然として集り、三十萬圓は忽ち豫約済となりたれば、更に總額六十萬圓に之を擴張したるに今日既に、五十二萬圓に達したり。云々

との趣意を述べて、今後天下の同情及校友の

共力に依り、其の目的を達する遠からざるべしと告げ、米國私立大學の勃興及早稲田大學の創立後三十五年にして學校の財産百五十萬圓に達したる現狀より之を推論する所あり。更に校友諸君は大學教旨に則り、模範國民と



青森校友會

半散會したり。

▲規約原案

- (一) 本會は早稲田大學青森縣校友會と稱す
 - (二) 本會は早稲田大學校友及び學生並に關係者を以て組織す
 - (三) 本會は事務所を青森市に置く
 - (四) 本會は會員相互の親睦を謀り校友會本部との連絡を取り母校の爲に盡力し併せて社會公共の爲に盡力せん事を期す
 - (五) 本會に幹事若干名を置く
 - (六) 本會は年一回大會を開く
- 翌十一日田中博士一行は午前九時三十分名和縣内務部長、工藤市長、其他市内有力者及び校友六七名の見送を受け、青森出發秋田に向へり。尙ほ校友和田喜太郎氏其他五六の校友諸氏は途中大鰐驛まで同車見送られたり。

面影



講師 渡米野球團監督

河野安通氏

一、我が遠征軍の敵に一籌を輪するの憾みありたるは技術の拙きにあらす體力の及ばざるに存す
一、米國各大學及女學校の運動獎勵は實に

盛んなものである。

米國シカゴ大學の招待を受け去る三月廿五日遠征の途に上り、四月三日布哇ホル、に着以來同地を始め、米國本土シカゴ大學ウィスコンシン大學其他各所に試合を試み、七月十七日無事横濱に歸着した我が野球團統率の勞を執られた監督河野安通志氏に面會して、その遠征の勞を犒うた折の事であつた。其の後遠征試合の様子は新紙の所報に依つて承つて居つたが、残念ながら凱旋將軍の概を示すと云ふ譯にはいかなかつた様であるが、我が軍敗戦の歸する所は何れに存するものによつて質問に及んだ所、氏は言下に

體力！全く體力にある

と答へられ、尚ほ左の概要を敷衍せられた。

米國の學生と我が學生とを較べて見るのに誰れも一見之を首肯し得る様に、既に先天的に於いて體力の我れ彼れに及ばざる遠き者あるのに、運動獎勵の點に於いて亦殆んど驚嘆を禁じ得ない程に我れ彼れに及ばざるものがあるのである。例へば彼國大學に就いて之を見るのに、何れの大學に於いても大抵フレッシマン即ち一年生は入學の一年間は必ず運動せねばならぬ事となつて居つて、運動のプロフ・テサーがあつて之を統一獎勵して居るのである。だから運動の設備なども至れり盡せりであつて、ジム・ネー・ジャム即ち體育室の設備の如きは實に驚嘆に堪えぬものがある。

運動の獎勵は皆に男子にのみ限られて居るのではなくて、女子の體育運動も亦盛んに獎勵されて居る。即ち女學校の全部と言はぬが、少くとも自分の參觀した限りの女學

校に於いては、何れも前に言つた大學(男子の)同様に運動の設備にはジム・ネー・ジャムあり、バスケット・ホールあり、スウィミング・プールあり、木馬ありと云ふ様に是れ亦至れり盡せりであつて、女子の腕の運動や、足の運動を獎勵して居る。そして女學校には女の運動プロフ・テサーがあつて之を統率して居るのである。實に米國に於ける體育運動は盛んなものである。

此の先天後天兩様の素質素養に依つて鍛練せられた米國學生の體力は實に羨ましいと言はうか、相手に取つては小憎らしいと言はうか、殆んど御話しにならない程我れと彼れとは違ふのである。我が軍の意氣敢て彼れに遜るにあらずと雖も、事實勝敗の點に於いて彼れに一籌を輸するものあつたのはまた止むを得ざる數と言はざるを得ないのである。然るに負けるには負けたに相違ないが、兎に角到處相應の人氣を集めて勝負を見物に見せ得る程に奮闘し得たのは聊か自ら慰むるに足る所であらうと思はる、のである。

だが、技術の點に於いては必ずしも我れ彼れに劣ると自ら卑うするにも及ぶまいと思はる、と云ふのは、嘗て彼の地に於いて所謂プロフ・テサーナル野球選手と技術上研究の事を話した事があつたが、此の人々の研究會得して居る位の事は我れ亦既に研究會得し居る所であつて、別に是れぞと云ふ程啓發せらる、所もなかつたことの事實に徴して斯く思はる、のである。聊か人意を強くするに足ること、思ふ。云々。

校友會報

●早稻田俱樂部消息

▲會長面會日並に午餐會、會長面會日並に午餐會を七月三回開催せるが、出席者左の如し。

七月五日出席

井芹 繼志	猪俣 勳	岩佐善太郎
西牧 季藏	渡邊 亨	吉田 淳
高山 圭三	紫安新九郎	浦邊 襄夫
黒川 九馬	山田 道兄	増田 義一
櫻井兵五郎		

七月十二日出席

高田 會長	池田 龍一	早速 整爾
大橋 誠一	田中四郎左衛門	橘 靜二
黒川 九馬	山澤 俊夫	降旗元太郎
小山 谷藏	昆田文二郎	齋藤 隆夫
櫻井兵五郎	三島 良藏	瀬川 光行
關 和知		

七月二十五日出席

高田 會長	池田 龍一	東儀 季治
大橋 誠一	岡部 次郎	橘 靜二
紫安新九郎	浦邊 襄夫	黒川 九馬
山澤 俊夫	昆田文二郎	瀬川 光行
▲會長面會日並に常例午餐會、日變更、高田會長面會日並に常例午餐會は從來毎週水曜日よりしが、當分の内毎週火曜日正午より二時迄と變更せり。尙當日午餐會に出席希望者は前以て事務所(電話新橋三六二)に申込まれたしとの事なり。		

▲益子五明兩氏送別會、母校雄辯會、及び丁

未俱樂部有志の發起にて、近々渡米さる、益子退輔、五明忠一郎兩氏の送別會を七月九日午後五時より本俱樂部に於て開く。比佐昌平氏送別の辭を述べ、次で益子、五明兩氏の謝辭ありて開宴。歡談十時に及んで散會せり。出席者左の如し。

益子 退輔	五明忠一郎	稻田 直道
猪俣 勳	猪野毛利榮	西岡竹次郎
堀川 直吉	大木 康孝	翁 玄旨
大澤 一六	吉田 淳	吉永 半平
田熊福七郎	高須 安一	武谷甚太郎
瀧 國雄	中村 泰治	永野 諦
永川 俊美	國田 孝一	山森 利一
眞下 五郎	松浦誠一郎	松枝 保次
小山 松壽	淺沼 雙三	櫻井兵五郎
寒河江堅吉	北澤 平藏	宮下庄太郎
比佐 昌平	鈴木 謙	

●戊申俱樂部例會、八月二十三日午後五時より向島百花園に於て開催せられたる本會例會は、折柄雨天なりしにも拘はらず、定刻前より熱心なる會友三々五々來會せられ、小倉百花園主の案内にて園内の秋草を賞觀したる上、席上樂燒の興あり。各自紀念の寄せ書きを試み、大に胸襟を開きて晚餐會を俱にし、學生時代の懷舊談に時を移し、十二分の歡を盡して散會せり。

尙次回は三島幹事の發議に依り、幹事を村井君に囑し、同君自邸に於て開催せらる、事に内定せり。當日の出席者は左の如し。(幹事報、來着順)

三島 良藏	小倉 房藏	小久江眞雄
清水 八郎	村井 五郎	井口 誠一

淺野泰治郎 田部 信秀 岩井 武雄
松宮 三郎

●宇都宮校友會 八月廿六日母校理事田中
唯一郎氏會計課主任高橋三郎氏と同伴校用に
て來宮したるを機とし、同日午後六時より八
百駒にて校友小會を開催す。宴始まらんとす
るに當り、田中氏立ちて第二期基金及び御大
典資金の模様並に學校の現狀益隆盛に向ひつ
、あるを説き、是れ校友諸兄の盡力、世人の
同情に依ると雖も、大隈侯爵、澁澤男爵、高田
名譽學長其他管理委員諸氏の力と云はざるべ
からず。此隆盛に際し一刻も忘るべからざる
事は、本學の基礎の強固を計ることにして、我
等當局者は其點に付ては東奔西走日も足らざ
る有様、只母校の爲めと大馬の勞を取り居る
次第なり。幸に校友諸君も其意を諒とし、大
に母校の爲め盡力あらんことを乞ふと挨拶あ
り。更に評議員矢口長右衛門氏來會校友を代
表し、學校當局者の勞を謝し、大隈侯、高田
文相の健在を祈り、校友等も微力ながら母
校の爲め大に盡さんとの意味の答辭ありて開
宴、獻酬の間歡談清話に夜の更くるを知らず。
遂に矢口氏の十八番開貫一、及び山田氏の膝
踊も出でて散會十時。盛會なりき。出席諸氏
左の如し。(順序不同)

田中准一郎 横尾 輝吉 矢口長右衛門
見目 清 安川 隆治 山田 鶴三
手塚五郎平 高橋 三郎

●山梨縣校友會 八月五日午後七時より知事
官邸に於て常議員會を開き、各常議員參集の
上、幹事十五名の人選及び會の基本金其他會
の發展上に就て協議を遂げ、終つて坂本知事

の晚餐饗應を受け、懇談に時を移し十時過散
會したり。人選したる幹事は左の如し。因に
來る九月下旬若くは十月上旬中央より學界の
名士を聘し、當市に於て學術講演會を開催す
る豫定なり。

風間 久高 小野 靜 早川 富平
石原 傳 奥澤 碌 新津 隆一
長田 映 青柳德太郎 矢崎直次郎
淺川 湖郎 内藤 正廣 雨宮安左衛門
矢島朋之丞 中村 長榮 關 善治

八月二十日午後一時より再び知事官舎に於て
常議員幹事の役員會を開きたるが、坂本知事
は常議員長の資格を以て會の發展に就き懇篤
に述ぶる所あり。各自胸襟を披いて協議を爲
し、會の基礎を強固ならしむる爲め、基本金
として各自印座に應分の贈出をなし、來月下
旬若しくは十月上旬に於て東京より名士を招
聘して甲府市に學術講演會を開催する事に決
定し、常務幹事として坂本知事より左の五名
を指名し、終りて茶菓の饗應あり。午後五時
過散會したり。常務幹事及び當日の出席者左
の如し。

常務幹事
風間 久高 青柳德太郎 新津 隆一
淺川 湖郎 關 善治

當日出席者
阪本 三郎 矢島 榮助 大森 國平
早川 富平 風間 久高 内藤 正廣
青柳德太郎 長田 映 矢崎直次郎
中村 長榮 小野 靜 石原 傳
雨宮安左衛門 淺川 湖郎 關 善治

●旭川校友會 八月五日午後七時より實業協

會に於て開催せしが、出席者
坂東幸太郎 坂東嘉市郎 兒玉 知吉
宮下春一郎 石田 慶封 岸原 三郎
土肥 薫
の七名にて、清楚なる茶菓の間に互に胸襟を
打寛けて高笑快談、就中卒業歸旭されたる坂
東氏により最近の校内事情を、布哇より歸朝
されたる石田氏によりカナカ土人の話等に花
を咲かせたるが、尙ほ來る廿三日増田義一氏
の來旭に就て講演依頼、歡迎會等について協
議せしが、萬事は坂東幸太郎氏に依頼する事
とし十時過散會せり。

●秋田市校友會大會

秋田市秋田校友會は今回同大學教授浮田和民
青柳篤恒内ヶ崎作三郎三氏の來縣を機として
其の歡迎を兼ね一昨十七日夜秋田俱樂部本館
に於て全縣校友大會を開催したり。午後七時
歡迎宴に先立つて關幹事の挨拶と三教
授を迎ふるの辭あり。次に栗谷幹事は會務と
會計の報告あり。井上廣居氏を座長に乞ひ議
事を協議す。役員の改選は投票選舉と詮衡委
員の兩説ありしも、結局後説に基き幹事は市
部三名各郡一名宛とし、新に學生委員七名を
設くるに決し、評議員と、もに左の如く詮衡
の上推選せり。

▲市部幹事 江畑顯、沖口圭介、片谷千代松
▲郡部幹事 武城祐吉、信太儀右衛門、久米田
正治、橋本生藏、佐藤德一郎、栗田政藏、清
水貞祥、田口謙藏

▲學生委員 高根、庄司、佐藤、松井、須田、
今、小笠原
▲評議員 小林定修、名取夏司、後藤實之助、

小笠原男太郎、奈良繁松、黒澤持壽、成田直一
耶、井上廣吉、宗方文三、安士秋一郎、市川直助
次に協議事項に移りしが、緊急の問題なく、
中央校友會及び學生との聯絡は一層密接なら
しめ、又各郡部に於て開會するの件も機宜に
處する旨懇談し閉會せり。引續き八時より別
室に休憩中の三教授を招待し、配膳後、關幹
事一同を代表して歡迎の辭を述べしに浮田教
授は教授側を代表し

今回縣北大館讀者會の講師として招かれ來縣せ
しが、かく校友會の招待を受け、校友諸君と
もに一堂に會し健康を祝し得ることは豫期せざ
る處で、實に欣幸とするのである。私は秋田は
これ二回目で、去る明治三十三年に天野爲之
博士と、ともに招かれ、縣會議事堂で演説をした
事がある。當時の秋田市の狀態と今の進歩とは
實に隔世の感がある。校友會員諸君の發展も又
然りである。而し夫れは獨り御地の進歩のみで
なく、我早稻田大學も亦大にしては日本帝國も
長足の進展をして居る。これは偏に陛下の御授
威であるが、又天祐神助に外ならぬ事と私は肝
銘して居る次第である。故に益々吾々は諸君校
友と共に國家の爲めに働いて此天祐神助を空し
うせざらむ事を期すべきである。

と謝辭を述べ終るや、獻酬款談裡に秋田音頭
其の他歌舞の餘興あり、校歌を唱和し、母校
の萬歳を高唱して十時半散會せるが、來會者
久米教育課長、井上代議士、伊藤前南秋郡會
議長、名取太良鐵山長、奈良農銀重役其の他三
十餘名にして、此種の會合には近來稀有の盛
會なりき。(一幹事)

▲同市講演會 秋田市校友大會開催の翌日即
ち八月十八日午後一時、秋田縣教育會主催の
下に秋田市公會堂に於て開催されたり。折柄

の炎暑に拘らず、市の有力家其他市民七八百名來聽。滿堂立錫之餘地なき盛況を呈したるが、久米秋田縣教育課長開會の辭に兼ねて講師の紹介をなし、摩食して旅館「たるま」を出で、千秋公園内松風亭に休息中の講師は順を追うて會場へ赴き、第一席は「世界に於ける日本の地位」と題して、本大學教授浮田博士が其の深遠なる蘊蓄と高邁なる識見を吐露すること約二時間に及びたり。第二席は本大學教授青柳篤恒氏にして「袁世凱没後の支那」なる題下に、約二時間半に亘りて日本及び支那を中心とせる最近極東の政局を論じ、明確に日本の對支政策を指示して、大に聽衆を啓發する所ありき。最後に本大學教授内ヶ崎作三郎氏は「東北振興策」と題し、是れ亦約二時間半に亘りて、東北振興策は要するに有爲なる人物の出現に待つものなることを、眞摯なる態度に無邪氣なる諧謔を交へつ、論じ去り論じ來り、全く聽衆をして心醉せしめぬ。時正に午後七時なりき。

浮田博士は同日午後三時秋田發歸京せられ、内ヶ崎、青柳兩教授は同夜河端龜清に於ける校友有志の招待會に臨み、十分に交離し、十二時の夜行列車にて内ヶ崎教授は歸京、青柳教授は同氏の祖先墳墓の地なる米澤地方の巡回演説に赴かれたり。(一幹事報)

●富山縣校友會 八月五日午後五時高岡市高岡ホテルに於て開催されたり。會する者多數。席定まるや、幹事高廣政之助氏の開會の挨拶及校友會の動靜、前川幹事の學生現況報告ありて、一同早稲田大學の進歩發達と共に漸次縣下學生の多く茲に學ぶ者あるを慶賀し、交

々立つての氣焔は遺憾なく早稻式を發揮し、宴會となり、興趣益加はるや、校歌起りて一同此に和し、滿堂爲に動搖めき渡り、實に稀なる盛會を呈せり。最後に早稲田大學萬歳を三唱して散會。時に九時。出席者氏名左の如し。

北 六一郎	竹島 敬一	西谷源太郎
板井吉次郎	兒島 純雄	高田 義雄
櫻井 好雄	松村 謙三	古瀬 正野
安念次左衛門	柴谷 龍寛	室岡 謹三
瀨野喜太郎	岡本 宗之	朝日 三郎
高廣政之助	嵯峨 了舜	島 徹郎
遠藤紋五郎	長久 昌二	關野 善郎
本間清一郎	三谷長太郎	島崎 清一
三浦 憲三	中川清治郎	赤壁徳三郎
高廣 三郎	菅池 清一	石瀬 二郎
鈴木 長英	織田彌一郎	齋藤 貞二
前川 慶作	清都 純一	櫻井善兵衛

●和歌山校友會 夏期における和歌山校友會例會は、折柄那賀郡教育會に講演中の母校教授志賀重昂先生を招じて歡迎の意を表せんがため、去十六日新和歌浦望海樓に開かれた。

會するもの和田警察部長、南方第一綿ネル、原田日清生命、樋口圖書館司書、其他校友學生三十餘名。五時龜淵幹事開會を宣して他人交ぜずの浴衣掛に、素より白拍子の座に侍るなかりしも、志賀先生の世界的談論に興味津々として盡きなかつた。即ち東西料理比較論に、先生の江戸趣味の通に驚嘆し、國力の發展は飲食物の嗜好を變化させるといふ説は考證該博、その止まるところを知らなかつた。記憶のまゝに一節を書けば「鯛なるものは歐

洲各國において魚類中の最も卑しむべきものとして殆ど土人の食膳に上することを許されなかつたものである。鯛は英語で *Parrot* といふも、これも知るものさへなかつたのである。然るに、本邦においては慶事のある毎にこれを用ゐるはなく、古來魚中の王として尊重せられてゐる。北清事變に際し、我兵歐洲各國の聯合軍と共に北京を攻めるや、我兵常に殊勳を表し、武勇絶倫の譽あり。各國兵驚嘆措かず、我兵鯛を稱揚するを見て、茲に始めて鯛を食用として用ふべきを知り、これを味はへば、亦美味なるを以て、この役以來歐洲各國これを用ふるに至つたのである。故に今において *Parrot* なる語を用ゐずして邦語に

を用ゐるのである云々」といふが如きは、最も面白いと思つた。いづれも同じ都の西北早稲田の森に昔育つたワセディアン、何の先輩も後輩もあるべきぞ、共に愉快氣に學生時代にかへつて打亂れて、酒にビールに、歡談に、時の過ぐるも知らぬ様は、ワセダスピリットの發露。外の見る目も羨ましい程の自由の空氣が漲つた。十時例の「早稲田の森」のコーラスを月映る銀波に残して、眞面目にして親しみのあるこの會合も幕を下し、各自歸途に就いた。(一學生)

●香川縣校友會 同會は八月五日高松市内町新常盤に於て新卒業生歡迎を兼ね校友學生聯合會を開催せり。暑中にも拘らず、態々郡部より來るもありて甚だ盛會なりき。一同豫て設けの席に着けば、幹事の挨拶を兼ねたる二三の報告あり。且評議員改選の件は幹事に一任することとなり。斯くて前評議員鈴木幾次

郎氏の重任に決し、次で新校友の答辭あり。饗宴に移る。同窓の人々久し振の會合として清話歡談盡るなく、一同心離を撤して相談り、快氣焔を吐いて意氣昂然たり、此の間紅裙の酒間に斡旋するあり。一同歡談時の移るを知らず、散會せるは十一時過ぎなりき。

●高知校友會 高知校友會は、毎年八月十五日を以て夏期大會を開催するを常例とせるが、本年は母校より理工科教授徳永博士の來縣ありたるに就き特に期日を繰り上げ、八月四日午後六時より市外巴塘得月樓本店に於て開催せり。工手學校長徳永博士、田井同校主事を正賓として招待し、出席會員四十餘名、一同着席するや、楠瀬幹事開會の挨拶に併せて徳永教授歡迎の意を述べ、次で徳永教授より謝辭と共に母校の現況に就き報告演説あり。後ち次年度の幹事改選に移りては岡崎座長より現幹事中川喜義、楠瀬如龍二氏の重任指名を爲し、直ちに開宴。同樓校書の酒間に斡旋する間にやがて校歌「都の西北」の合唱を皮切りとして土佐名物の箸拳に來賓の興趣を惹き、夫れより舞妓の手踊數番ありて一同十二分の歡を交へ、和氣霽々の裡に解散したり。來賓徳永教授、田井主事の外當夜の出席諸氏左の如し。

織田信福(縣會議員) ●吉崎七次郎(高知工業學校校長) ●森澤菊吾(同上教頭) ●小野松彦(土佐銀行事務取締役) ●片山三郎(高知大林區署長) ●岡崎賢次(大東捕鯨會社專務) ●中川喜義(土佐セメント取締役) ●辻畑政市(高知瓦斯會社支配人) ●別府鹿太郎(縣參事會員) ●楠瀬如龍(高知新聞主筆) ●

今村雄久馬(時計商)●鹽見連(辯護士)●

横山丑太郎●伊野部重彦●伊野部恒吉●伊

野部重明●安岡男喜●長尾景英●東頼太郎

●上田紫朗●山地保●田村侃一●深瀬五郎

●宮地幸雄●改田秋藏●廣井泉●濱川顯左

右●島崎隆●和田義公●西村薫樹●中澤茂

●河野通憲

●鳥取縣東部校友會 今回浦島季俊氏(政

治科)内海汎(法科)松本三郎氏(商科)等の新

卒業生を出し、且つ山樹忠興氏發木田一夫氏

等の歸郷永住者を出したるため、久振りに會

合すべく企畫したる折から、偶々母校志賀教

授鳥取縣教育會夏期講習會講師として來郡せ

られたるに就き、之を機として八月四日午

後二時より倉吉町壽座に於て通俗講習會を開

き、校友伊東祐保氏司會の下に志賀教授の

『歐洲交戰國の内情』と題する長時間の講演あ

り、縣下教育家及び倉吉町民等約四百名の聴

衆ありたるが、同夜七時より同町龜平亭に於

て懇親會を開く。出席は

撈をなし、前田幹事は母校現下の狀況、御大

典紀念資金並に該事業の狀況、及び教育調査

會並に政界の動搖に關する意見を述べ、終り

て一同盃酒の間に交馳し、在京當時の舊態に

若返り、意氣昂然、孰れも斗酒尚ほ辭せざる

の概ありしも、時已に午夜を過ぐるを以て、

校歌を合唱して散會せり。本會目下會員得業

生五十二名、在校生二十餘名を有するを以て、

此日更に規則を改め、校友會基金を募集する

こと、毎年必ずしも一回は之を開くこと等

數項の規約を定め次會の幹事を西垣勘次郎、

平尾寛二氏とし、右の規約は兩氏より一般會

員に通報すること、せり。出席は

前田 多藏 西垣勘次郎 西村佐兵衛

長 藏雄 田口幹太郎 宮崎 辰造

平尾 寛 平尾 豐 吉井 厚

の諸氏なりき。

●熊本に於ける校友三日會 八月三日午後六

時より同市内一本竹町南山樓に於て開會せ

り。出席者は

相一行の着廳を待ち受け、直ちに大門口青柳

樓に於て歡迎會を開催せり。文相一行は當地

校友一同を代表して熊本縣大畑驛まで出迎へ

たる日野辰次氏と共に同日午後九時十八分鹿

兒島驛着直ちに日野氏の案内にて會場に臨

み、席定まるや、日野氏歡迎辭を述べたるに

對し、高田文相の謝辭あり。宴酣にして日野

氏の發聲にて文相の萬歳を三唱し、又文相の

發聲にて鹿兒島校友會の萬歳を唱和し、歡談

盛んに興趣湧き、十二分の豪快を遺つて十二

時散會。頗る盛況を呈せり。當夜の出席者は

高田文相並に橘秘書官大原文部屬の外左の三

十一名なりき。

日野 辰次 法元定一郎 宮原 友記

石田 顯道 岡元喜藤太 堀添 壯吉

厚地 嗣麿 樋渡 清廉 吉留仲之丞

岡山 秀平 宇都宮虎二 實松 竹二

林 爲良 安田 尚義 牛尾 元次

免田 幸藏 田代 通輝 高野 健介

前田 實 黑岩 正義 前田 久盛

肥田 實 奧村源太郎 白坂郷左衛門

伊東 善藏 牧元 靜衛 渡邊 綱夫

堀 勇吉 上野 秀磨 市來 政弘

鹽田 武彦

男爵島津忠夫 日野 辰次 厚地 嗣麿

堀添 壯吉 岡山 秀平 宇都宮虎二

實松 竹二 前田 久盛 黑岩 正義

池田政一郎 牧元 靜衛 白坂郷左衛門

有川 勇保 稻松喜一郎 川上 親正

石塚 榮一 二ノ宮健吉 森田 彦市

堀 勇吉 市來 政弘 上野 秀磨

鹽田 武彦

●南部臺灣稻門會の發起

臺北臺中共に稻門會あり、焉んぞ南部に無か

らざる可んやと各校友の意氣此に結晶し、新

に臺中より臺南地方法院長に榮轉ありたる渡

邊啓太氏の赴任を機とし、臺南第一の名聲家

片山昂氏の甚大なる斡旋により、七月四日後

六時滋養亭樓上に於て發會す。席定りて片山

氏拍手の間に立ち發會の挨拶を述べ、同氏と

學校との關係を語り、臺北臺南に於ける從來

會合の沿革を説くこと頗る詳。尚ほ此會合は

廣義の稻門會と稱し、範圍を濁水溪以南とし、

會合地を嘉義臺南及打狗等に巡廻し、會合の

期を五月十一月の二回とし、這回を發起人會

となし、次回は臺南に開くを以て第一回と稱

すべく議決し、別項の如く幹事を指定す。快談

中明治製糖社員松下泰次氏より祝電あり。又

渡邊片山兩氏の年長爭ひ起り、年次より月に

入り日に入りて片山氏一日の長と列國否な列

七

●鹿兒島校友會消息

▲高田文相歡迎會 同會は五月七日夜高田文

相一行の着廳を待ち受け、直ちに大門口青柳

樓に於て歡迎會を開催せり。文相一行は當地

席監視の中に確定し、該稻門會の最年長者と決定し、一同大笑す。此時新月の色鮮に支那東海の波濤荒るる夕映の空に懸りたるが、纏て暗雲張り風樓に滿ち白雨將に到らんとして遂に來らず。麥酒の泡を氣焔と共に吹き飛ばして九時半散會す。出席左の如し。(幹事報)

●片山昂(辯護士) ●渡邊啓太(臺南地方法院長) ●山本芳助(長老教中學校教師) ●宮本諄(同上) ●柴田稔(山田商店主) ●荒木大五郎(打狗花壇主) ●香取吉滿(打狗鐵道部) ●平方俊彦(臺南電氣作業所) ●津田信教(臺灣製糖社員) ●菅沼信一(鹽水港拓殖製糖會社員) ●豐守眞吾(臺南新報社) 常任幹事

豐守 眞吾
幹事 山本芳助 柴田 稔

校友動靜

大正三、四年事件の功に依り、叙勳及階勳の光榮を擔はれたる校友左の如し。

●鈴木喜三郎(維持員教授) 授旭日重光章
●大隈信常(維持員教授) 叙勳三等授旭日中綬章
●田川大吉郎(二三政) 同上
●早速整爾(二〇政) 同上
●本多熊太郎(四二推) 同上
●鹿子木小五郎(二八推) 授旭日中綬章
●堀原正直(三〇英政) 叙勳三等授瑞寶章
●信夫淳平(二三普) 同上
●船橋達賢(二二政) 同上
●杉溪言長(二二普) 同上
●松本恒之助(二一英) 同上
●辻 寛(一七政) 同上
●菊池武徳(三四推) 同上
●西村丹治郎(二三政) 同上

●江藤啓歳(三二行) 叙勳三等授瑞寶章
●降旗元太郎(一八政) 同上
●政尾藤吉(二二普) 同上
●青地雄太郎(二〇政) 同上
●紫安新九郎(三三政) 叙勳四等授旭日小綬章
●阿 和知(二八政) 同上
●小山谷藏(三一英政) 同上
●戸水寛人(教授) 授旭日小綬章
●山田三良(二二普) 同上
●佐藤孝三郎(四四推) 同上
●河合 龍(二八英政) 叙勳四等授瑞寶章
●松平頼壽(三五法) 同上
●福原俊丸(教授) 同上
●島津久賢(三九政) 同上
●矢島榮助(三五推) 同上
●石橋爲之助(四四推) 同上
●齋藤隆夫(二七行) 同上
●柏原文太郎(二六英政) 同上
●横尾輝吉(二七推) 同上
●森田小六郎(二推) 同上
●高柳覺太郎(四三推) 同上
●鈴木實彦(二九政) 同上
●伊東知也(二九法) 同上
●細梅三郎(三六政) 同上
●井上廣居(一九政) 同上
●森丘覺平(四四推) 同上
●有田溫三(二一政) 同上
●武内作平(二二推) 同上
●山道義一(三九大政) 同上
●清峯太郎(四二推) 同上
●金澤種次郎(二五行) 同上
●久須美東馬(三四推) 同上
●中村尙武(二二法) 同上
●小山松壽(二八法) 同上
●西川太治郎(二一政) 同上

●西田銳吉(二二政) 同上
●長澤倉吉(四一大商) 同上
●關戸寅松(二八行) 同上
●櫻井兵五郎(四四政) 同上
●保科陽治(三〇政) 同上
●川上淳一郎(一八政) 同上
●鶴澤字八(四〇推) 同上
●水野正巳(三六推) 同上
●豐福泰造(二推) 同上
●大内暢三(二五專) 同上
●大場茂馬(講師) 同上
●矢田七太郎(四三推) 叙勳五等授雙光旭日章
●岸本康通(三八推) 同上
●山崎直三(教授) 同上
●鈴木要太郎(二八英政) 同上
●成毛基雄(三四英政) 叙勳五等授瑞寶章
●二本千年(三八大法) 同上
●林久治郎(三六英政) 同上
●平野亮平(四三推) 叙勳六等授瑞寶章
●縫田榮四郎(四三大政) 同上
●桑島主計(三九大政) 同上
●三橋市太郎(二九專) 授單光旭日章
●新名直和(三七法) 同上

●上田麗(三九政) 神戸市内田汽船株式會社勤務
●中村健一(四大政) 大阪市西區二條通株式會社
●富島組出張所勤務
●眞田 武(四五政) 大阪加島銀行本店勤務(大阪府高槻町八五)
●吉村四方海(四一大政) 大阪市北區中ノ島久原
●鐵業株式會社に轉勤(大阪府東成郡天下茶屋大正筋)
●佐伯唯一(四政) 門司市棧橋通合資會社中村組
●永井康夫(四四大政) 株式會社第百四十七銀行
●都城支店を辭す(宮崎縣都城町下長飯)
●河野 憲(四政) 中部鐵道管理局新橋電力事務所に入る(麻布區北日ヶ窪町三七)
●佐々木春治郎(四政) 大藏省主計局に入る
●鈴木茂三郎(四政) 報知新聞記者に轉ず
●竹内喜三郎(四政) 流行社庶務主任(本所區元町一八)
●毛利 茂(三大政) 長崎松尾鐵工場に入る
●中村 明(四一大政) 三菱會社勤務(牛込區市ヶ谷山伏町三)
●彌久末庄七郎(四五政) 岡山縣兒島郡小串村安田商事株式會社岡山支店安田製所に轉勤
●小林助次郎(四三政) 支那天津日本租界吾妻街大木法律事務所文案主任となる
●森市太郎(三八政) 歸朝(宮城縣亘理郡山下村淺生原)
●遠藤慈請(三二英政) 近江國坂田郡長濱町明治銀行支店に轉勤
●美輪平一郎(三一政) 日英水力電氣會社員(濱松市元城五六)
●河原林健一郎(二九英政) 三井物產大阪支店員(大阪府外天王寺常盤通ノ二〇二ノ一)
●多賀富藏(三九政) 福岡縣嘉穂郡大谷村古河西部鐵業所に轉勤
●桑原喜八(四〇政) 朝鮮京釜鐵道院桑原農場主となる
●武藏直市(三九政) 札幌區株式會社川北電氣企業社札幌出張所勤務(同區南七條西二ノ二)
●森本一雄(四大政) 東京毎夕新聞記者となる(京橋區築地一ノ二東方)
●石田武太郎(四大政) 中外商業新報に轉ず
●西野光晴(四四政) 福島縣石城郡好間村古河好間鐵業所勤務
●小田井紫朗(二政) 東京株式取引所に入る
●小野雪江(二大政) 中部鐵道管理局經理課會計

係に轉勤(市外高田村雜司ヶ谷四四六)

●藤江周輔(四三政) 鬼怒川水力電氣株式會社を
辭し大阪府南區南船場町四一に歸住

●田中啓次郎(五政) 京橋區銀座尾張町二ノ一黑
澤商店に轉勤(麻布區本村町二一横井方)

●前田好雄(三八政) 朝鮮釜山佐藤町東亞煙草會
社釜山販賣所部長

●本間清一郎(五政) 帝國製麻株式會社北海道札
幌支店製綿本部に入る(札幌區北八條西一丁目
ノ二林方)

●小島文作(五政) 松島洋行に入る

●磯前參次郎(五政) 同上(神戸市海岸通三丁
目八番地)

●水川俊美(五政) 東京朝日新聞記者となる

●加藤景福(五政) 東京通信記者となる(芝區
愛宕町二ノ四)

●兒島英俊(五政) 南滿洲鐵道會社に入る

●井上啓一郎(五政) 同上

●上田輝治(五政) 朝鮮銀行に入る

●遠藤盛彌(五政) 日本橋區北島町山下汽船合
名會社に入る

●飯島德次(五政) 横濱市東洋汽船會社に入る
(同市北方町六四七佐久間方)

●渡邊 憲四(四政) 後志國岩内町北海道銀行
岩内支店長

●浦部章三(九法) 東京控訴院判事に轉任

●堤 政一(三四法) 大分縣臼杵區裁判所判事に
轉任

●山村勝次郎(三四法) 山口縣山口區裁判所判事
に轉任

●木村宗七郎(四大法) 京都府廳庶務課勤務(京
都市上京區西三本木中の切通シ上る眞町二)

●津田毅一(二三法) 臺灣嘉義廳長退官千葉町新
町に轉住

●副島増市(三法) 臺灣嘉義廳勤務

●石田義太郎(三九大法) 西部鐵道管理局運輸課
勤務(神戸市東川崎町一丁目鐵道官舎第十六號
ノ二)

●菅谷通三(四大法) 日本郵船株式會社橫濱支店
員(同市福島町二、福壽館)

●片尾康爾(四五大法) 福島地方裁判所檢事に補
せらる(福島市置賜町大平館)

●木下元記(四大法) 三井礦山株式會社に入る(福
岡縣大牟田町七浦松野靜代方)

●宮野忠恕(二法) 南滿洲鐵道株式會社長春地方
事務所勤務

●大關誠一郎(三三行) 南滿洲長春共立株式會社
支配人となる(後備陸軍工兵中尉)

●丸山幹治(三四行) 米國より歸朝(兵庫縣御影
町郡家字地藏元六五番地ノ一號)

●船田 勇(四五大法) 青森縣立商產學校を辭し
福島縣若松市寺町一四に歸住

●尾原 始(四〇大文) 廣島監獄看守長となる(同
官舎内)

●宮崎右夫(三一文) 鹿兒島縣立川邊中學校在勤

●桑原重矩(四〇大文) 東洋文明、新橫濱主筆(横
濱市岡野町一〇七)

●沼田 穰(四大文) 警察技手を命ぜられ警視廳
保安部保安課勤務

●羽山常太郎(四大文) 流行界主筆(本所區元町
一八)

●柴田義久(二大文) ギャイヤモンド社に轉ず(神
田區錦町三ノ八柳原方)

●江部香圓(四一大文) 流行社理事(本所區元町
一八)

●速水三郎(三大文) 宮崎縣立宮崎中學校に赴任

●中島德行(五大文) 實業之日本社婦人世界記者

●關 松則(四大商) 平沼銀行勤務

●本間義一(四五大商) 豐多摩郡上澁谷二四に於
いて山下電氣工場を創立す

●豐守 實(四四大商) 臺灣台南新報社營業部長

●井口 威(四五大商) 兵庫縣川邊郡小田村大阪
合同紡績會社神崎支店に轉勤

●服部 盛(四三大商) 横濱市福島町マニラ麻輪
入麻真田輸出商服部商店勤務

●江上成美(四大商) 朝鮮仁川府本町四丁目向神
洋行員

●五十嵐信藏(四大商) 輻重兵第十三隊除隊の上
新潟縣西頸城郡上早川村に歸住

●今井正也(四大商) 東洋拓殖株式會社を辭し熊
本縣玉名郡梅林村松村秀文方に轉住

●東 履吉(四大商) 千葉縣印旛郡第九十八銀行
に轉勤(同郡成田町成田支店内)

●松村 勇(四三大商) 神戸三菱造船所を辭し京
都市南區寺町寺の内大松方に轉住

●藤澤 久(二大商) 三井礦山株式會社秘書課に
轉勤(芝區金杉一の五)

●辻 一郎(四三大商) 鴻池銀行を辭し麻布區東
町三二に歸住

●木村真平(四大商) 第一生命保險相互會社勤務
(牛込區原町二の二三宮永方)

●堀尾乃武夫(四五大商) 大阪府外中津町毛斯綸
紡織株式會社勤務

●山田定治(二大商) 大阪市北濱二丁目大林組に
入る

●巽 精一(二大商) 村井銀行天満支店に轉勤

●木下熊男(四五大商) 京橋區宗十郎町高砂生命
保險株式會社に轉勤

●安食高尙(三大商) 銀座二丁目日本製麻株式會
社勤務(市外代々木中山谷一三二)

●藤原亮三(四五大商) 近江銀行東京支店に轉勤
(府下荏原郡大森不入斗二四二)

●南 守一(三大商) 日清印刷株式會社に入る

●鈴木喜一郎(四四大商) 貿易商野澤組神戸支店
員(同市旗線通り六の一八)

●永田已代次(五大商) 大阪市北濱二丁目大林組
に入る

●山縣長六(五大商) 三菱合資會社造船部勤務

●河出源一(四大商) 本所區三田土ム製造合名
會社勤務(下谷池の端七軒町三〇忍館内)

●秋山一三(四四大商) 福岡縣遠賀郡戸畑町明治
製糖株式會社勤務

●藤田平逸(四大商) 大阪市高麗橋三井物產株式
會社大阪支店勤務(同市外天下茶屋寺田橋角)

●宮地久雄(四五大商) 青島山東鐵道管理運檢
課勤務(青島久留米町四山鐵官舎内)

●倉光哲三郎(四大商) 神戸市海岸通り三丁目三
井物產支店に轉勤

●高橋謹爾(四〇大商) 山口銀行京都支店に轉勤
(京都市上京區吉田町中太路三四)

●平野恒三(四四大商) 合名會社堀内井上銀行社
員代理(三重縣松坂町殿町)

●中村靜一(四四大商) 朝鮮論山漢湖農工銀行支
店に轉勤

●宮崎長次郎(四三大商) 福岡市藏本町福岡銀行
勤務

●久保田清(四一大商) 株式會社安來製鋼所松江
電爐製鋼部に轉勤(松江市母衣一八一)

●中村時雄(四一大商) 明治貿易株式會社の爲め
歐米各國商業視察として米國に向け出發

●會田暉治(二大商) 沖繩縣那覇區西新町二の四
六、沖繩製糖株式會社に入る

●土屋啓造(四二大商) 岡山縣倉敷町倉敷紡績株
式會社本店に轉勤(倉敷町字東町吉井旅館)

●宮崎良治(二大商) 第三銀行勤務(豐町區四丁
目六番地)

●清水清次良(四五大商) 山口縣阿武郡生雲村古
河川井山鐵山に轉勤

●入江一太(四大商) 岡山縣重兵第十七大隊第二

中隊一年志願兵

●井上興一(四四大商) 茨城縣助川驛久原鐵業株式會社日立製作所に轉勤

●村松武夫(4大商) 川崎貯蓄銀行本所支店勤務(深川區西六間堀町二六村山方)

●中村一二(四四大商) 博多製紙株式會社營業部長(福岡市西區箱四六三)

●片山和久(四五大商) 南洋より歸朝(深川區安宅町一〇)

●日野正信(四〇大商) 合資會社バリウム工業社員(豐多摩郡淀橋町角筈二五三)

●金子正男(四五大商) 神戸市前町十八番永井商會の用務を帶び米國に渡航

●木村 誠(2大商) 遼陽帝國領事館外務書記生

●富田吉藏(5大商) 川崎銀行京橋支店勤務

●杉本貞一(5大商) 古河合名會社足尾鐵業所經理課調度係(栃木縣足尾町渡良瀬舊合宿所)

●片岡武男(5大商) 横濱市太安生命保險會社勤務

●平山忠善(5大商) 日本橋區小網町三の二二赤井洋行東京出張所勤務

●吉川成次(5大商) 大阪商船會社員

●川邊儀助(5大商) 大阪東區備後町三丁目堺筋角奥田ビルプロカー勤務

●橋本 關(5大商) 日本海上運送火災保險會社員(大阪府西成郡鷺洲町北裏一の二六吉田方)

●喜多義之(5大商) 北海道札幌北海道鐵道管理局に入る

●高塚康平(5大商) 豐多摩郡千駄ヶ谷町九二二藤倉電線株式會社勤務(市外雜司ヶ谷龜原九の一二)

●小林 新(5大商) 福井縣今立郡北日野村矢放に於て農業從事

●大竹正雄(3理工) 大阪市西區京町堀三の二三東亞電氣商會勤務

●小林 薰(3理工) 靜岡縣警察部保安課在勤(靜岡市譽田町二三)

●宮崎 茂(3理工) 府下淀橋町鐵道院新宿停車場內電力區勤務

●丸山誠吾(4理工) 北海道釧路國苦小牧村王子製紙株式會社電氣部勤務

●熊田茂次(4理工) 香川縣坂出町鐵道紡績會社工務部勤務(坂出町字田町木山音次方)

●武田俊彦(3理工) 北海道留萌電燈會社技師となる

●廣瀬 恭(3理工) 神宮司廳土木課囑託

●佐藤新三郎(4理工) 府下赤羽町日本製麻株式會社赤羽製工場勤務

●星野宗一(5理工) 鐵道院工務局車輛課勤務

●太田周平(5理工) 築地海軍造兵廠勤務(京橋區南飯田町川口留吉方)

●片岡松三郎(5理工) 石川縣能美郡尾小屋鐵山礦場勤務

●橋本廣人(2英) 久留米歩兵第五十六聯隊第九中隊入營

●中山好次(三九英) 横濱市山下町二の六B太平洋貿易合資會社に轉勤

●堀口龜重(3英) 福島縣師範學校に轉任

●鶴田大務(三六國) 神戸市立高等女學校に轉任(同市石井村四九の二八)

●丸本庄太郎(三九英) 朝鮮總督府京城中學校教諭に轉任

●長澤健藏(4英) 新潟縣刈羽商業學校在勤(同縣刈羽郡柏崎町上四ツ谷)

●中西稻治(四二國) 岡山日々新聞主筆を辭し著述に從事

●江崎準繩(5國) 文部省國語調查囑託(牛込區喜久井町二〇山口方)

●森辨治郎(2英) 香港日本郵船會社支店に轉任

●高田甚四郎(3推) 東京日々新聞社勤務(赤坂區青山北町六の四六)

●牧野謙次郎(教授) 牛込區矢來町三番地中の丸二十一號

●鈴木喜三郎(教授) 麴町區三番町七一

●土子金四郎(舊講師) 北豐島郡長崎村字荒井一八〇七

●野村 堅(助教授) 北豐島郡東鴨町大字集鴨一〇八二

●樋口清策(教授) 市外戸塚町諏訪二七

●吉江喬松(教授) 市外西大久保二四六

●坪内士行(講師) 小石川區高田老松町一七

●有馬祐政(舊講師) 市外落合村下落合五二六

●今井文平(舊講師) 30 Church St. N. Y. U. S. A.

●串戶眞佐樹(三七政) 麴町區上二番町一三波多野承五郎方

●近藤喜市(2政) 名古屋市中區矢場町一の切成瀨貞次郎方

●岩永藤樹(4政) 麴町區飯田町六の一宮代貞方

●栗田俊治郎(三六政) 牛込區原町三の七三

●谷市之助(四〇政) 大阪市中區旅籠町九

●齋藤正義(四一政) 府下千駄ヶ谷町七三二

●佐々木春治郎(4政) 牛込區新小川町三の一二小俣方

●堀内俊太郎(三六英政) 下谷區上根岸町一三一井口方

●大塚氏明(三〇政) 芝區高輪北町四八

●川本三郎(一八政) 牛込區櫻町七日清印刷株式會社

●高木富五郎(4政) 府下内藤新宿北裏町六八

●川口喜一郎(4政) 牛込區下戸塚町九富城館内

●大島親貞(三五政) 麻布區森元町二の三

轉居

●板橋菊松(四一政) 金澤市十三間町一〇九

●濱中長平(3政) 金澤市森町一番丁一九(北國新聞社員)

●岡田勝人(四四政) 熊本市古新屋敷町四三四

●森田正亮(四五政) 神田區西小川町二の五小見寺方(鐵道院官吏)

●浦川數之助(三六英政) 佐世保市郊外東彼杵日字村福石免字島越

●圓城寺 良(三四政) 市外内藤新宿番衆町三三

●池田作四郎(四〇政) 横濱市神奈川柳町千百五十六番地

●龜山貞一(4大政) 大阪市中區堂島中二丁目三九の六

●久間九郎(二八政) 本郷區元町二の六六

●犬伏節輔(四四政) 名古屋市中區東外堀町二の三三

●大熊虎五郎(三三英政) 千葉縣船橋町寺町字不動院

●鈴木宗七(三九大政) 芝區白金三光町二七六

●降旗元太郎(一八政) 小石川區新諏訪町一〇

●堀 重三(四二大政) 名古屋市中區南武平町四の二七

●瀧山良一(三七英政) 大阪府西成郡天下茶屋五七九

●井上啓一郎(5大政) 牛込區鶴卷町三八靜進館

●西村清一(4大政) 本郷區弓町一の二五

●舟橋達賢(二二政) 京都市上京區鹿ヶ谷町字櫻谷一一

●松家徳次郎(三四英政) 小石川區大塚坂下町六十二番地

●小山精一郎(四二大政) 麴町區元園町一の二六

●服部錠三(四〇大政) 市外西大久保二七一

●稻田直道(4大政) 牛込區南櫻町八番地の二號

●植木茂一(5政) 市外戸塚町大字下戸塚五三三

堀口方

●田中辰治(5政) 京都市上立賣通小川西入ル光島方

●角田強哉(5政) 牛込區早稲田南町三四常榮館

●久留弘三(5大政) 赤坂區青山南町五の四五

●堺田顯次(5大政) 本郷區西片町一〇はの一二

●木場貞盛(5大政) 市外戸塚町戸塚一五二

●鈴木孝次郎(4大政) 225 W. First South St. Salt Lake Utah. U. S. A.

●實性確成(5大政) 牛込區矢來町一の三二橋清七方

●江原憲吉(5政) 小石川區大塚坂下町一五一小川き方

●西岡竹次郎(5法) 赤坂新町四の七青年雄辯社

●安西計太郎(四五法) 牛込區神樂町一の四

●米田勝造(三八大法) 大阪市南區天王寺勝山通二の五八八二

●内藤拾太郎(二〇法) 富山市鹿島町六四

●清水留三郎(三五法) 下谷區上野櫻木町一八

●近藤親太郎(四五法) 小石川區大塚坂下町百九十三番地

●熊田繁太郎(四五法) 神田區榮町二の九近藤銀次郎方

●渡 干城(三九大法) 麴町區平河町五の一七

●松原達藏(四二大法) 山口縣大島郡和田村

●吉田 廉(三八法) 福岡市外鏡島

●木村壽雄(4法) 麴町區一番町四三甲田方

●仲宗根玄愷(四二大法) 小石川區關口臺町二八

●中尾清太郎(二九法) 府下中野上の原七六二

●高瀬清就(5法) 神田區佐久間町二丁目十三番

●地鈴木兼太郎方

●岸川長作(5法) 本郷區湯島天神町一の一六

●吉永半平(5法) 赤坂新町四の七

●浦部章三(一九法) 小石川區第六天町十八番地

●小室英夫方

佐藤忠吾(三四行) 麴町區麴町一の二三

●岩永重華(二三行) 朝鮮釜山富平町三の六二

●淺野兼助(二八行) 大阪東區味原町六一の一三

●野見山岩太郎(三五行) 福岡縣嘉穂郡飯塚町仲小路

●谷 較六(5大文) 山口縣佐波郡防府町野崎一四一

●若月作市(2大文) 神田區和泉町一番地一號

●落合廉一(四五大文) 大阪市西區江戸堀北通三の六吉川方

●竹内彌納(四四大文) 下谷區谷中初音町二の四

●鬼塚長次郎(3大文) 小石川區大塚坂下町百九十九番地

●石上貫之(四四大文) 靜岡縣安倍郡服織村字羽島六三

●吉岡文次郎(四三大文) 淺草區北元町一二

●高野敬錄(3大文) 下谷區金杉下町百九十二番地鈴木方

●河野 讓(三八大文) 神奈川縣小田原町十字四の八六五

●田中 純(4大文) 小石川區關口臺町二六

●岡崎五郎(2大文) 市外雜司ヶ谷龜原二二三

●篠崎彦三郎(3大文) 府下千駄ヶ谷五四八

●飯田敏雄(四四大文) 岡山縣吉備郡高松町二百八十七番地

●福田秀太郎(2大文) 鳥取市西町田村豐方(因伯時報記者)

●田淵義一(5大文) 牛込區東横町二〇榮進館内

●砂川一平(5大文) 北多摩郡砂川村三一五

●湯淺三至(四〇大商) 下總國松戸町根本一一九

●吉富令藏(四五大商) 麻布區本村町一六

●加藤亨(四四大商) 牛込區早稲田鶴巻町四二九

●高橋三郎(四二大商) 市外下戸塚五七三

●高木正次(3大商) 牛込區新小川町二の八

●奥居増吉(3大商) 芝區下高輪六〇

加藤茂正(2大商) 名古屋市外千種町元古井一五六川口長二郎方

●伊原全郎(四三大商) 麴町區麴町五の三

●齋藤 武(3大商) 千葉縣君津郡松丘村廣岡

●中村登利三(四三大商) 市外千駄ヶ谷九〇二番地深作方

●清水金八(四三大商) 福岡市外住吉町字先新屋二三八

●爪生龍丸(3大商) 福岡縣鞍手郡首方町山部五六〇

●關谷繁太郎(3大商) 赤坂區青山北町七の二〇

●磯野菊一(4大商) 岡山縣兒島郡甲浦村宮浦

●河出源一(4大商) 麴町區飯田町五の二一

●黑田幸七(四二大商) 京都市粟田口町字三條坊四〇黑田豐方

●近藤實德(四五大商) 愛媛縣新居郡西條町本町

●白川順一(4大商) 芝區橫新町九

●翁 玄旨(3大商) 牛込區南横町八番地の二號

●山森利一(四四大商) 小石川區水道端二の一一

●百瀬善重(四二大商) 本郷區駒込曙町十三番地

●にの六號

●鶴田鷹男(四三大商) 芝區二本横町二

●安積勝三(四四大商) 京都市上京區塔之段毘沙門横町

●森 愛藏(四三大商) 神戸市中山手通七丁目番

●外九十七番屋敷の二八

●藤田兵次郎(四五大商) 沖繩縣那覇區松山町一

●の三九

●服部二三(四四大商) 市外巢鴨町字染井九五六

●三菱俱樂部内

●本多四郎(3大商) 名古屋市西區笹島町三の一

●一本多合資會社内

●島崎 隆(3大商) 大阪府西成郡玉出町五二三

●山口太郎(四三大商) 赤坂區青山南町六の四八

●松井猛三(四四大商) 市外内藤新宿北裏町百二

十三番地

●黑澤政章(四四大商) 牛込區北町八

●大久保林道(四三大商) 日本橋區通四丁目七尾

●張屋東京出張所内

●三島良藏(四一大商) 小石川區水道端一の二七

●能任理左久(5大商) 大阪府東成郡天王寺村字

●柳原五四四

●高橋玄吉(5大商) 府下戸塚町下戸塚三三九米

●山館内

●谷口勘次郎(5大商) 京都府南桑田郡鶴岡町驢

●屋町

●森四郎(四五理工) 本所區太平町一の一

●山邊二郎(2理工) 大阪府西成郡中津町下三番

●三七〇〇〇〇園内

●田上耕之助(4理工) 臺灣總督府土木局營繕課

●宇佐美胖(4理工) 四谷區坂町一〇八

●石川石次郎(3理工) 芝區白金三光町三〇五

●水上 新(4理工) 北海道北見國紋別郡上湧別

●村上湧別局坂、中湧別鐵道建設所官舎

●増田松榮(4理工) 小石川區大塚坂町二四の十號

●廣瀬 泰(3理工) 三重縣宇治山田町神宮司廳

●升本欽治(4理工) 神奈川縣茅ヶ崎町眠山

●及川福太郎(四五理工) 大阪府西區三條通一の四四崎和彦方

●圓井竹三郎(3理工) 大阪府外天王寺巴通町

●鬼塚綱彦(4國) 牛込區原町三の六五清水方

●秋山仁平(3國) 牛込區早稲田鶴巻町二七森田方(研究科在學)

●廣政幸助(三八英) 宮崎縣宮崎町神武馬場

●廣聖吉久雄(4國) 府下瀧野川町西ヶ原九四一

●大野芳廣(四〇英) 本郷區西須賀町二

●長尾景幾(三九英) 小石川區音羽九丁目一九

●鈴木梅司(四二歷) 群馬縣前橋市在片貝村

●高橋彌助(4數) 本郷區追分町八八矢田部方

- 花田芳太郎(5國) 岡山縣淺口郡六條院村
- 加藤正文(5英) 靜岡縣田方郡中郷村松本
- 神保次郎(5國) 富山縣下新川郡加積村
- 秋山忠直(二七推) 神戸市兵庫港地方會下山一四三
- 川口松三郎(四一推) 博多東中洲停車場前大阪屋方
- 谷口守雄(四五推) 麻布區本村町一四四
- 深川忠吉(三四推) 福岡縣三潁郡大川町若津港

改姓名

- 宇田隆三(四一大政) 舊姓中(和歌山縣那賀郡田中村字蓮)
- 齋藤末吉(四五政) 舊姓佐々木
- 土岐二三(三三行) 舊名鏡太郎(愛知縣犬山町字小島町)
- 伊東忠堅(三九大文) 舊姓高尾(牛込區南町二七番地)
- 稻生龜之助(四五大商) 舊姓間瀬(神戸市榮町三丁目武内商店内)
- 御厨善作(3大商) 舊姓川原(長崎市八坂町五二大阪朝日通信部内)
- 笠原國雄(四〇大商) 舊姓宮崎
- 武藤喜三郎(四〇大商) 舊姓篠原(山口縣玖珂郡桑根村玖珂嶺山礦業所所員)
- 松野 澈(四一大商) 舊姓山口(徳川家財務部に入る)
- 小林小三郎(2大商) 舊姓神澤(群馬縣邑樂郡赤羽村)

- 明治三十九年 專門部政治經濟科出身 井上 東作
- 大正三年 專門部政治經濟科出身 尾形 林藏
- 明治四十二年 大學部法學科出身 三浦伊勢次郎

- 明治三十六年 大學部文學科出身 天野 壽太郎
- 明治三十年 文學科出身 大 西 照
- 明治四十年 大學部商科出身 武内 節次郎
- 明治四十四年 大學部商科出身 高田 敬治
- 明治四十年 高等師範部英語科出身 中島 辰雄
- 明治二十年 英語本科出身 丁 吉
- 明治三十五年 推選校友 館岡 重四郎
- 明治四十二年 推選校友 大串 喜好

右諸氏の計報に接し哀悼の至りに堪へず茲に謹んで弔意を表す

正誤

大正四年十一月調校友會友名簿一三六頁下段八行目川邊基三郎とある基は喜の誤植に付茲に訂正す

學 會

教友會消息

▲研究例會 四月十五日(土)午後一時より政治科第二十教室に於て、金子大榮師の華嚴經に現はれたる道の思想に就て、約二時間に亘る講演あり。後ち講師室に於いて來會者の茶話會を開きたり。

▲卒業生豫餞會 四月廿九日(土)午後六時、本會々員にして本年度卒業の諸君に對する豫餞會を牛込區夾來俱樂部に開いた。木山本會監督の開會の辭に亞いで、土屋講師、武田教授及び校友桑門典氏の卒業生諸君に對する豫餞の辭あり。卒業生總代として島田勉氏の答辭ありて後、晚餐を俱にし、本會の爲めに特に

出席せられたる秋庭正道氏の教界美譚の巧みなる講談振りと、信仰の一念に彩られたる美しき二女性の淺草公園に於ける記念事業に關する血と涙とに成れる物語りは、吾人をして覺えず襟を正さしむるものであつた。その後主客入り交りての談話は、校友の母校を懐ふ一念に伴つて佛教會の生命を三十一年の長きに繼承して活動して居る本會の事に就て、様々の懷舊談や抱負談などがあつて、時間の移る早きを惜むだが、當夜は評議員の多くも集まられたればとて、豫て幹事會に於て宿題となつて居た本會の名稱に就て佛教の二文字を加へ、その運動の旗色を鮮明にする必要があるとの主要なる問題から、随分異見の交換が烈しかつたが、相互の意見が一致して、佛教の二文字を加へ、本會は早稲田大學佛教校友會と改稱するに決定した。

當夜の來會者は校友側には、土屋詮教、武田豐四郎、塚本賢曉、井上元規、桑門典、岩本次六、木山十彰の七氏の外に前記秋庭正道氏及び幹事水智立觀、荒谷顯光、花野敬之丞三氏であつたが、その卒業生の來會者は左の六氏であつた。

岩切縣、太田義隆、宮澤末男(以上哲學)、梅山一郎(高師英)、本庄主一(高師國漢)、島田勉(理工、電)

尙本年卒業生中本會々員は、右六氏の外西川玄雄(英文)、松崎爲三郎、神保次郎、大國平二郎(以上高師國漢)

合計拾氏であつたが、哲學科の三氏を初めとして何れの諸氏も優秀の好成绩であつたことは、本會員一同の慶賀するところである。

因に本會は、在學數年間に亘り、特に本會の幹事として、本會の事業遂行上、甚大の勞苦を執られたる島田、本庄二氏に對しては、特に感謝の意を表するものである。諸子の健闘を禱る。

▲卒業生記念攝影會 七月五日母校卒業式當日式前、鈴木寫真館に於て記念撮影をなした

▲新入學生歡迎會並びに例會終結 五月六日(土)大講堂に於て、新入學生の歡迎會を兼ね本學年度に於ける最終例會を開いた。來會者約四百名許りであつたが、本會講師金子大榮師の華嚴經の大綱を提けての『道と人』といふ講演は、武田教授の新入學生諸子に對する精神文明の體現者として世界に教のべき日本人の使命を高調せられたると相待て、幽玄眞摯の思ひを起さしめたのは嬉しかつた。當日は本派本願寺特選布教使廿餘名が同寺執行名和淵海師に率ゐられて、本大學及び本會を見舞はれ、本會の發達を祝せられ、若干の基金を寄せられたことを感謝する。

- ▲如月會 六月二十六日午後五時より同會例會を内幸町早稲田俱樂部に於て開會。互に美術上の意見交換し、續いて酒の筵に各自打くつろぎて罪のない話に花を咲かし、夜十一時十二分の歡を盡して散會した。當日の出席者は右の如くであつた。
- 文部大臣代理 橘秘書官 紀 淑雄
- 林田 春潮 谷 紀三郎 古川 修
- 小森 彦次 森口 多里 若月松之助
- 中村 鎮 金木 九萬 白木 正光
- 植村 宋一

學生會合

●法科謝恩會 七月五日卒業式終了後、大學部法科卒業生は神樂坂吉新に於て卒業祝賀並に謝恩會を催したり。出席者は左の諸氏にして、小笠原幸彦氏先づ開會を宣して謝恩の辭を述べ、高木常七氏諸般の報告を爲し、且つ將來の希望を陳べて宴に移る。獻酬盛なるに至りて、小山先生杉田先生の謝辭あり。主客歡を盡す間に紀念の揮毫などあり。散會したるは正に十一時、盛會なりき。出席者左の如し。

小山 溫 杉田金之助 小笠原幸彦
稻葉 良男 小瀧 辰雄 高木 常七
松園 進 平木 繁信 藤井 卓
山本久次郎 矢 永 務

●法科卒業生より 本年度卒業の法科同窓生は在學中愛撫教育を受けし恩師諸先生の鴻德を追慕せんが爲、且は同窓互ひに親交を變へざらんが爲に、英法、獨法、專法の諸級協同の上、卒業紀念寫眞帖を作製して相頒ち、以て永遠に學窓の回顧に資せるが、尙若干金を釀出して科長中村博士に紀念帖壹部を贈呈し且雜費を節約したる殘金にて母校へ卒業紀念樹を寄贈せり。其計算左の如し。

收入の部

一金貳百貳拾七圓五拾錢也
寫眞帖六拾五部代(壹部金參圓五拾錢宛)
一金八圓參拾錢也
有志寄附金及釀金六拾參人分(壹人拾錢宛)
合計收入金貳百參拾五圓八拾錢也

支出の部

一金貳百貳拾七圓五拾錢也
寫眞帖六拾五部代(壹部金參圓五拾錢宛)

一金參圓五拾錢也

中村科長へ寫眞帖一部及委員へ記念品寄贈
一金貳圓也
諸先生へ寫眞返送料及び別辭其他諸雜費等
合計支出金貳百參拾參圓也

差引殘金貳圓八拾錢也 大學へ記念樹寄贈
以上(委員小笠原、高木、中野報告)

商科卒業紀念アルバム調製
經費決算報告

(收入の部)

一、寫眞代
甲ノ部拂込單價(四角) 一冊分參圓五拾錢、八九五圓四〇
乙ノ部拂込單價(三角) 參冊分三圓七拾錢、七〇
一、申込棄權者前期拂込甲乙二人分參、七〇
一、寄附金
アルバム申込者ノ分 貳〇九名 棄權者ノ分貳名
アルバム申込者以外分 參名 棄權者ノ分貳名
合計 九七、六〇
九七、六〇

(支出の部)

一、卒業生寫眞代
甲ノ部單價(四角) 一冊分參圓五拾錢、八五八、〇〇
乙ノ部單價(三角) 參冊分三圓七拾錢、七〇
一、恩師アルバム寄贈代
乙ノ部單價三圓四〇 七冊分 貳參、八〇
一、寄附金
圖書購入代九貳圓六〇、記念樹代五圓〇〇
樹名ボブラー三本、プラタナス二本、チェリーツブ二本
合計 九七、六〇
九七、六〇

一、雜費
學校會計謝禮及圖案提出者謝禮 貳圓五拾錢
寫眞者につき損失 二圓〇〇
アルバム調製雜費 九圓八拾錢
合計 九七、六〇
右之通候也
大正五年七月十二日
アルバム調製委員 小林新 高島靖 高橋龜吉

式 正 次

尙寄附物件に就きては委員會の決議に依り一部圖書、一部紀念樹と決定し、圖書購入はゼミナリー教授及吉田教授の指定に一任す。紀念樹はボブラー樹九尺内外三本、プラタナス九尺乃至一丈二本、チェリーツブ樹九尺乃至一丈一本にして、合計六本植込時期は都合に依り本年十月末日とし、植込場所は學校の指定に一任す。

●英語會の紀念撮影とテーパーテイ 五月十三日(土)正午美しきアゼリヤの花は白く或は紅に咲き亂れて、一面に綠なす中央校庭と相映して初夏の美は悉く此處早稻田の園に集められた様に思はれた。この柔かきアトモスフィヤに包まれて、英語會員の團は舊幹事森下政一、飯島德次、小林喜一、杉村正吉馬場平二郎、石井眞峯諸兄の卒業を紀念せん爲め、天野學長、伊藤、高杉兩副會長、淺川教授、ベニンホフ博士、ケート、キタシマ兩夫人の御出席を懇請して快諾を得、共に恩賜紀念館前にて撮影した。卒業生諸君の手には紀念の旗とメダルが光つて居た。卒業生の一人富谷君が病氣の爲め缺けられたのは惜しい事であつた。紀念撮影を終つてから、午後二時幹事笠木君の王子の別邸で小テーパーテイを開いたが、非常に盛會であつた。一に同家の厚き深切によるものである。ここに深く御禮を申上げて置く。

運 動

●水泳部の閉鎖

去る七月十日房州北條海岸に於いて練習を開

始せる我が水泳部は豫定の期間終了、八月二十日之を閉鎖せり。尙詳細の成績は次號に記載すべし。

●野球團渡米日誌

河野安通志稿

▲市俄古大學野球團の招聘に應じて渡米せんとする我等一行十三名は、三月廿五日午前九時半、安部體育部長、鈴木次官、田中理事前田幹事、神尾教授其他の教員諸氏、慶應の村尾、三宅兩氏、明大選手諸君並に先輩校友諸氏の多數に送られ、東京驛を出發、午後三時東洋汽船會社の春洋丸に搭じて遠征の途に上る。船中元氣頗る旺盛にして一方ならぬ船員諸氏並に會社の歡待を受けつ、四月三日午前九時布哇ホノル、に到着、我大學の關係者其他多數の人々に迎へられて、一行がホノル、滞在中の宿たるワイキ海岸の望月俱樂部に送らる。庭園廣く椰子の葉蔭に太平洋の潮風薫り、心身爽快を覺ゆ。

▲五日夜布哇中學並に布哇女學校主催の歡迎會に出席す。餘興に、馳走に我等の爲めに深厚なる歡迎と同情とを寄せられたるは一行の深く感謝する處なり。

▲四月八日ホノルチームと布哇にての第一戰を爲し三對二にて敗れ、翌九日の對支那人戰は十三對二にて我軍の大敗に歸す。

▲四月十三日望月俱樂部にて一般有志の歡迎晚餐會あり、出席者八十餘名、勝敗の如何に關せず多大の同情を寄せられたるには一同感銘す。

▲十三日にはオワフリゾートグ以外のセントル

イスカレツヂと戦ひ七對一にて勝ち、十六日のホノル、チームの二回戦は四對二にて再び敗績し、十八日ホノル、より汽車にて約二十分程のブローアなるカメバイハ要塞砲兵と戦ひて二對一にて勝ち、對日本人俱樂部との對戦は廿二日五對六にて敗れ、翌廿三日七對三にて復讐す。廿五日の對要塞砲兵二回戦は六對四に我等再び勝ち、以上布哇にての成績は九戰四勝五敗なり。

▲布哇滞在中、十五日には布哇女學校の大演藝會に招待され、三十日には早稻田會の人々の好意にて一同四臺の自動車に分乘してオワフ島一周を試みる等諸校友並に新聞記者諸氏並に布哇中學校女學校の我等に對する優遇は一行の感謝措く能はざる處なり。

▲五月二日米國船ソノマ號にて桑港に向ふ。八日午後二時桑港へ到着、シカゴ大學よりはスタインブレツカ、サア一の兩氏波止場迄出迎へられ、日本人にては森本氏、シカゴ大學校友笠井氏、母校校友淺井氏等來られたり、午後金門公園にて練習、翌九日午前九時桑港を出發してサクラメントに向ひ、オールスターサクラメントと試合して八對二にて勝ち、同夜日本人有志の歡迎會に臨む。頗る盛會にして我等を激勵する。また感謝する處なり。



シカゴ大學より我が野球團に贈られた銀製の大杯

▲市俄古へ向ふ途上、十二日午前六時ソートレーキ市に著、ユタ大學と試合して八對四にて大勝し、日本人會の歡迎會を受けて、ロツキー山を下りてシェイエンなる町にてインデアンなる半商人と戦ひ十對十五にて敗れ、デシバーにては、種々日本人諸君の同情を導うし、ヘー、デンバー大學との試合は三對一にて敗北に終る。十七日デモインにてハイランドパーク大學に六對零に敗北し、十八、九の兩日は強敵エームス大學と二回戦を行ひて、

九對零、六對一にて再度敗北の悲運を見、廿日にはアイオリ市にてアイオワ大學と戦つて八對二にて連敗し、愈市俄古に向ふ。

▲五月廿一日午後四時半市俄古に到着、來栖領事夫妻を初め、教授スタツグ氏、メツフィールド氏、ベージ氏其他市俄古の選手諸氏數十名の出迎へを受け、ミシガン湖畔のビーチホテルに投宿、翌廿二日には午前中シカゴ大學のジムネージム(室内運場所)グラウンド等を見物し、次いで總長ジャドソン博士に一行

の紹介式あり。

▲廿三日よりは市俄古大學のスケヂュールに依り附近へ遠征を試み、イリノイ大學と戦ひ六對零にて敗る。同校には校友三神氏が在學中にて我等の爲に種々の勞を取られ、同夜は同校學生の組織せるコスモポリタン俱樂部の招待を受け出席す。

▲更らに十四日インデアナ州なるテレ・ホート方に至り、廿四日ローズボリテクニツクなるカレツヂチームと試合して廿一對八にて大勝し、廿五日は同市ノーマルスクールと戦ひて二對一にて惜しくも敗る。同市滞在中セントメリス、オブ、サウツスなる舊教の女學校を參觀し、約一哩の郊外にある炭坑を見物せり。

▲六月三日は市俄古大學創立廿五年祭として頗る賑かにて我等も假裝行列中に加はり、午後本遠征の主目的たる市俄古大學との第一回戦を行ひしが、遺憾七對一にて我が計画就らず。

▲六月五日以後は再び附近の遠征を續けて、五、六の兩日はウイスコンシン大學と二回試合して八對一、五對四にて再敗し、九日の對市俄古二回戦は降雨の爲中止、十二日はオバリン大學、十三日はウイスター大學と戦ひて前者は四對一、後者は二對零にて敗北し、十四日の對エークロン大學には六對一にて勝ち、六月十六、十七の兩日市俄古大學戦を行ふ。

▲我軍第二回戦には九對二、第三回戦には八對四にて連敗し、第三回戦終るや、記念の爲めとしてジャドソン博士より我等に大カップの贈呈を受けた。

▲これにて豫定の試合を終り、六月十七日夜市俄古出發直に桑港に向ひ、二十一日桑港着廿三日には桑港在留日本人と歡迎試合を舉行して二十二對二にて大勝し、六月廿八日出帆の日本丸にて歸路に就き、七月十七日無事横濱に歸着したり。

最後に吾人は我等一行の遠征中に寄せられたる各地在留日本人諸君の御厚意並に深甚の同情並に盡力を辱うせし市俄古大學に感謝するものなり。

雜報

●大日本青年修養團記事

本團主幹青柳教授は夏期休暇中、秋田縣鹿角郡内青年團の聘に應じて同地方各青年團に巡回講演を試みたり。同教授は先づ八月十日大館町に入るや毛馬内青年會幹事黒澤小二郎氏之を迎へ、十一日尾去澤に向ふ。尾去澤驛に著するや校友片岡頼義氏等迎接し、一同所謂『トロ』に搭乗し、約一時間を費して海拔一千五百尺なる尾去澤鑛山の絶頂に攀登せり。同所にて同鑛山所長名村章吉氏、副長阿部寛氏庶務課長岡本友三郎氏等の出迎を受け、三菱俱樂部に少憩、午後七時より村立小學校に於て同村青年を中心として來集せる聴衆數百名に對して青年修養に關する講話をなし、次で支那と日本及び列強の最近の形勢を説きたり同夜は黒澤氏及び同氏令兄黒澤祐齋氏と俱に俾を列ねて下山し、花輪町を過ぎて毛馬内

町に著せり。毛馬内小學校長阿部良太郎氏、毛馬内町郵便局長樋口定三郎氏、校友山本修太郎、同石川正治氏、申島織之助氏、第五高等學校教授立山平氏等に迎へられ、毛馬内小學校に於て午前九時より約三時間に亘る講話を試みたり。同地は支那學の泰斗京都大學教授内藤湖南博士及び日清戰爭の際軍事探偵として深く敵地に入り、遂に敵手に捕へられ國家の犠牲となれる故石川伍一氏等の出生地なれば、同地方人士は支那問題に關し特殊の興味を有せるを以て、青柳教授の『袁世凱没後の支那』に關する講話を最も熱心に傾聴したり。同日午後同校講堂に於て催されたる青年男女の各種餘興を觀たり。

同日大湯村青年會長文學士諏訪富多氏及び大湯小學校訓導千葉繁次郎氏等は青柳教授出迎の爲め毛馬内町に來着、毛馬内小學校訓導伊多波毅氏同教授を送り、一行俾を列ねて大湯村に向ひ、薄暮大湯温泉に着、大湯小學校長佐賀榮祐氏其他の出迎を受け風遊湯旅館に入りて小憩す。同日午後七時より大湯小學校に於て青年會講演會を開催せり。青年會員の來聴者數百名に達し、青年の爲めの修養談及び日本を中心とする最近の極東政局を説き聽衆を啓發すること大なりき。十時半閉會、映を出で、岫に懸る月を仰ぎつ、旅館に歸る。翌十三日は同温泉に半日の靜養をなし、諏訪文學士等の案内にて池鯉亭に午餐の饗を受け、午後一時毛馬内町より來れる黒澤小二郎氏に迎へられて圓太郎馬車にて一先づ毛馬内町に歸來し、校長山本修太郎氏邸に小憩す。小坂小學校訓導佐藤清一郎氏青柳教授出迎への爲め山本氏邸に先着し居り、毛馬内郵便局長樋口

定三氏に送られ、一行三名再び圓太郎馬車上にて行く々々小坂鑛山の煤煙の天に沖するを眺め薄暮小坂町に入り、校友小坂町長小笠原勇太郎氏及び小坂尋常高等小學校校長兼小坂町立實科高等女學校長千葉源之助氏等に迎へられて小坂ホテルに投ぜり。

同夜八時半より小坂小學校に於て『最近の日支關係』なる題下に極東の政局を詳説し、青年の修養に資すること甚大なりき。同夜は藤田小坂鑛山所長齋藤精一氏、小坂郵便局長小泉七六氏、校友下斗米潔、柿沼邦司兩氏等も出席し頗る盛會なりき。同夜は小坂ホテルに一泊す。

明ければ十四日早曉、同教授は小坂町を發して大館町に向ふ。小坂町長小笠原勇太郎氏見送として同行せらる。大館町に於ては前日來北秋田郡教育會及び大館町讀書會の主催なる講習會開會せられ、招聘講師本大學教授浮田博士及び内ヶ崎作三郎兩氏滞在在中なりき。翌十五日は午前八時三十分發列車にて土崎に向ふ。同地には十二日以來、南秋田郡教育會主催の講習會開催せられ、日々本大學教授田中穂積氏講演中なりしが、青柳教授は同教育會長近江谷榮次氏の依頼に應じ、課外講義として『對支私議』と題して一場の演説を試みんが爲めなり。土崎女子尋常高等小學校長出藤吉氏、同校訓導池見忠光氏、準校友町會議員館山祐治氏等の出迎へを受けた。演説後、田中教授と俱に池鯉亭の招待會に臨み、同夜七時土崎發十一時大館に歸着す。

翌十六日は午後一時より大館町小學校に開催中の講習會に臨み、課外講義として『袁死後の支那と日本の對支政策』と題して有益なる講話を試みたり。同夜大館町通俗講演會開催せられ、『世界に於ける日本の地位』浮田博士『東北振興策』内ヶ崎教授、『實業上より觀たる支那』青柳教授等の講演ありたり。翌十七日午後三時半、講演會關係者の盛なる見送りを受けて一行三名大館町を去りたり。而して同夜秋田市に開かれたる校友大會に出席し、翌十八日は同市に開催せられたる秋田縣教育會主催の演説會に臨めること別記の如し。同夜青柳教授は同市を出發して米澤有爲會主催の同地巡迴講演に向へり。(一記者)

●銀行學者招待懇談會 學者と實務家との會合の機會を造り、學理の話、實務の話、互に問ひ互に答へて學理と實務との調和を圖るは是れ事の進歩に資する所以なり。東京に於ける若手銀行家の錫々たる人々によりて組織せらるる銀行員同公會は右述べたる主旨を以て學俗接近の實を舉げんと欲し、新たに銀行學者招待懇談會なるものを發起し、其の第一回に先づ本大學教授ドクトル服部文四郎氏を招待し、七月十二日黃昏六時、東京銀行集會所に其の最初の試みを催せり。時恰も暑氣漸く加はらんとする時期なるに加へて各銀行共決算期の爲め多忙なりしにも拘らず、出席者七十餘名の多數に及び、服部教授は先づ問題提出者たらんとて現在、我國の金融狀態より其の原因を述べ將來に及び、銀行制度の前途工業資金問題、銀行分業の是非、國際金融、對外資本政策、其他に亘りて種々なる問題を提供し、一時間以上是に關する意見を述べられ、次いで會員の感想、意見、質問に對して一々丁寧懇切なる答辯の勞を執り、互に意見

を交換して時の移るを覺えず、十時を過ぎて漸く此の有益なる會を終れり。(一會員)

●米國大學教授の訪問 米國プリンストン大學歷史及び經濟學科々長にして今回米國大統領ウィルソン博士の命を帶び、講演の爲め支那に赴かるるマツクエロイ博士は、其の行途日本に立寄り、八月十六日、本大學教授服部文四郎氏の紹介により總長大隈侯爵邸を訪ひ折柄來邸せられたる鹽澤教授並に服部教授の通譯により侯爵と會見。東西民主主義の比較日米の關係、現代大戰爭、其他國際政治並に經濟等の諸問題に就き一時間餘、談話を交換せられ、次いで本大學に來觀、暑中休暇中なりしも校庭其他を巡視し、辭去せられたり。

因に大學關係者にして嘗てプリンス頓大學に遊びたる司法省副參政官關和知、文部秘書官橋靜二、本大學講師島谷亮輔、フェリス學校教授川上勇、前記服部教授其他の諸氏はマツクエロイ博士夫妻を九段富士見軒に招し、極めて鄭重なる歡迎會を催し交歓せりと云ふ。

●吉江教授の出發 文學研究の爲め本大學留學生として佛國に留學せらる、教授吉江喬松氏は本月八日出發留學の途に上られたり。

●早稻田購買組合消息 同組合に於ては理事任期満了に付七月二十八日臨時總會開催之れが改選を行ひたる處

浦邊 襄夫 前 島 彌 小久江成一 三氏再選重任の事に決定し、其の承諾を得て八月三日就任登記を了し、尙ほ更に

望月嘉三郎 土屋 詮教 富山幸次郎 三氏に評議員を囑托したりと云ふ。

●地方生活の研究 資料蒐集

(校友及學生諸君の寄贈を求む)

明治時代に於ける經濟的變動は、我地方生活に著しき變化を及ぼしたる事は、吾人の目撃する所にして、それが我國運の將來に深き意義を有する事は今更いふまでもなし。即ち近時『地方産業振興』『農村救済』の高まるるによりても明かなり。されど我國の地勢の複雑にして且歴史の舊き事は、全國到處の町村の自然的環境に著しき差違を生ぜしめたのみならず、之に織成されたる地方的特殊なる事實は、町村の經濟生活に特殊なる色彩を生み出さしむるに至り。されば眞の地方生活の研究は純行政的方面と純經濟的方面内外に、其町村生活の背景たる自然的環境と人文的環境とに着目せざるべからず。本大學にては、『此意味での地方生活研究の資料』を蒐集すべく講師小田内通敏氏に囑託して全國より材料を蒐集しつゝあるが、校友諸君と學生諸君との御高志により諸氏の手近き郷里の資料を左の項目によりて御寄贈(整理の關係上小田内講師宛)を得ば實に望外の幸なりといふべし。

一、明治以後町村の經濟生活の變遷を知るに足るべき材料。地勢及氣候との關係・耕地の變遷・主要産物の變遷・勞力の過不足・衣食の變遷等。

二、町村の住民の種類と其影響(地主と小作人・舊家・農民と漁夫の差・貧民等)。

三、町村の生活に影響多き史的事實(社寺・舊家人物等)。

四、町の生活を知るに足るべき刊行物(町村誌・統計地圖及古記録・寫眞等)。

通信

●米國便り(其の一)……講師・留學生

中村 萬吉氏

拜啓爾來御疎遠に打過し候御海容被下度小弟二月中旬を以てエール大學へ遊ぶべく左記へ轉宅仕候

Mc Nakamura, c/o Mrs. E. M. Johnston,
911 Howard Ave, Conn., U. S. A.

エールハ一八二四年ロオ、カレッジを設置したるをもてハアバード法科の一八七一年に比し七八年の後輩に御座候へ共成金のコロムビアが一八五八年の常設に對しては遙かの先輩に候、コロムビアの前身は一七七三年設立のキングス、カレッジなる旨同校目錄には記載しあれども同カレッジの歴史は爾く繼續的のものにあらずる様察せられ候。即ち年功の點よりいへばハアバード第一、エール第二、コロムビア第三と可相成候乎。設備の點よりいへばハアバード亦第一等に位するが如く(未見ざる故斷言はなし得ず)コロムビア殆ど之に匹敵しエール最劣れり。但エールの特色はシビル、ロオに在りと自稱いたし、ドクトル、オプ、シビルロオ(D.C.L.)の學位を設けしは米國最初(恐らく最後)なりと申居候、乍併シビル、ロオの法源ローマ法の研究は自稱程にも無之又有名と吹聴するウキラー、カレクシオン(Wheelers Collection of Roman Law)も一見する所驚く程の事なき様に御座候。英米法に至ては到底ハアバードの比にあらず。乍併當校の方針は人物養成本位にして法科には特に雄辯課を設け他日政治家法術家として飛躍すべき素地を作り居候、學生の氣風も實質にして元氣好きは組育如きに於て到底見るべからず候從て多數の人物を輩出したし居候が、近くは前大統領タフト君なども亦當校の卒業生に御座候。タフト君は現に當法科名譽教授として憲法を講義いたし居候。小弟も面白半分出席致居候。同君の教授は大統領式にして悠揚不迫。簡にして要を得人格の光先づ講堂を壓し居候。大體の行き方はソクラテースがマエオイチークを想記せしめ、學生の自家開發を主とす、但し問々要點に至れば例の朗々たる音吐を以て説去り説來り米國憲法の精神を説破致候、直に是れ活人活法を活説すと申すべし。我大學も大隈老候に囑して大にエールのタフト式を發揮いたし度杯考へ居候。

多忙なるまゝ、狭きニューヘブンの模様まだ見ず候イースト、ロツク。ウエスト、ロツクの兩公園、名だるエールの大ステディウム、偕ては海濱の光景など春長が見物いたすべく候。エール歴史科教授朝河貫一氏(校友)は頗る御壯健にて目下日本法制史としての封建制度史、日本社會宗教史御講義中の由に候。勿々。

二月十五日
中村 萬吉

●米國便り(其の二)……講師・留學生

中村 萬吉氏

(上略) 尙今より申上置度は、若し今後一年内に歐洲平和と相成申さずば、米國を來年春引拂ひ、渡歐の上一巡各地學校を見て歩き直に歸朝致すべく候。その結果、豫定より半年以上も年限短縮致さるべく候間其の豫定學費をもつて多少とも書籍を購入し新設研究科へ備へ付け度候、依て目下は成るべく費用を節し度考へに御座候。

尙研究設備の件は過日毛利君と數回討議の結果日本特有の形式を案出し毛利君より詳細市島氏宛申達致置候由、小弟も今後各學校訪問と共に更に意見の相違を來すを測られず候へ共今日の處毛利君詳報の意見と同一に御座候。又法科今後の教授方法に付ても多少得る所あり、十分研究致すべく候。

●米國便り(其の三)……校友……

猪俣津南雄

(上略) 當市着の翌々日には、はや一切の手續を了して講義に出ることを得ました。申す迄もなく、出るといふ丈けのやうなものであります。他人の國などへ出掛けて來た者の拂はればならぬ税金だと思つて、解るやうな顔で謹聴して居ります。當分仕方がありません。

此學校に來てよかつたと思ふことが、今では二つあります。恩師藤澤先生の第二のアルマ・マターである爲めに、自分の科目に關係の深い教授方が、満更の他人といふ眼を以ては見て呉ず、御陰で余分の便宜が多く得られるといふことがその一つ、もう一つは、自分の主なる研究科目農業經濟學に於てはなかり力を入れて居るといふことであり

法科の藏書今の處多からず且一方に偏したるの嫌あり特に民法千條書少なし、又今後早稲田法科は英語本位の教授法を採用する方、入學者及卒業生に對して、好都合と存候、之に付ては今後小弟に於書物を仕入る上に付成るべく英書を多く仕入れ度と存候、米國にては歐洲(獨佛は勿論、伊、露、丁、埃、和蘭等)の著述は大概英語と相成居り、殊に刑法に至ては伊佛の名著大抵英譯と相成居候、これら是非取揃へ研究科生の便宜に供し度候。若し小弟の在米中之を購入し得る如く圖書館へは交送被下候へは至極便利と存候、いづれ此等の目錄作成は送附可致候。又獨佛の原書も多少購入せればならず候へ共此方は小弟成るべく自費購入致すべく直接學生の需用とならざれば圖書館へ負擔するは妥當ならずと考へ候。(下略)

二月十五日
中村 萬吉

田中 理事殿
前田 幹事殿

ます。此大學は、廣義の文科と他に工科と農科、此三科が其本體とも見られるのでありますが、經濟學(廣義)、哲學(廣義)、數學(廣義)などがそれ／＼文科の「デパートメント」をなして居ると同じやうに農業經濟學は農科の一「デパートメント」をなして居る、即ち斯學は、言ひ換れば、銀行論、社會政策、心理學、哲學概論等と對等の位置に在るのでなく却てこれらを含む經濟學、哲學等と均しい地位に置かれて居る、少くとも形式上は、その通りなのであります。更に之を、三人の正教授と九人の助教授で擔任して居るといふ處を見ると、力を入れて居ると見ゆるのは、偏へに形式上からには止まらぬといふことが明かになります。此學問は、其性質から、哲學に屬す一二の學問などとは異り、一人の深い先生を有つよりも、充分な材料を與へて呉れる裕かな設備を有つ方が、之れが研究生にとつて利益であるといふやうな趣きも多分にあります。何れにせよ、斯學が輕視されて居らないのを、少なからず仕合せに心得て居ります。

クラス、ワオルク、は今の處、普通の講義は、二時間、間に過ぎず他の八時間は、デスカッション若しくはラポトリワオルクであります、その標準備、之れ補助となる讀書の外の時間は言葉の稽古に費して居ります、馬鹿／＼しいと、厭やになつて來る心を抑え抑え、啞でも體でもなくなるやうにとあせて居ります。一度ならず二度ならず字引と相談せれば出て來ないやうなことを、フガークを使ひ乍らスラ／＼としやべつて居る小娘の横顔をしげ／＼と眺めて居るやうなこともあり、兎に角半年仕事です。

小生が唯一の日本人、支那人は二十人程も居りますが、湖上、スケート出来る位に氷るやうですが、長い、四月迄も續く冬が思ひやられます、今朝あたりは十一月の半ばといふにもう初雪です。毎日晴れて居るのをせめてもの喜びにして居ます。少くとも越後よりはいいと。

大學町丈けに人氣は悪くありません。こちらが控え目にして居るからでもありませんが、まだ一度も不快な印象を得ません、黄色い奴だとも腹で思つて居たからとて知らぬ顔さへして居て呉れ、ばこちらにも知らぬ顔で通えます。

殆ど凡ての誘惑物が此町から遠ざけられてゐると人々が皆相應に親切にして呉れることは、専心な勉強を容易にします。何時も乍ら頑健であります。

十一月十一日

市島健吉様侍史 猪俣津南雄

●エール大學より・講師・留學生

中村 萬吉氏

拜啓春暖の御御壯健に御座候や當地二月中旬以來殆ど隔日の降雪にて白皚々など、打興する騒ぎにあらず、殊にアス、フールドのサイドウオークは稍雪解けの氷夜中凍結する爲め毎朝往來危險にて小生も既に兩三回脚を失し雪中へ顛倒致し文明も却て厄介に存候尤も是の多量の雪は當地にも近來稀有の由、或は歐洲大亂の餘勢ならずや抑シヤレ居る人も御座候、

『エールは近づく難く親しみ易き學園に御座候且日本人と縁故多き爲め、却て好過いたし呉れ申候コロムビアの如く商人氣質毫も存せず矢張り由緒ありげの學校と相見候、殊に土地清爽閑靜なるには何となく腰の落着き易き處に御座候、朝河教授が随分久しく滞在さるるも無理ならずと觀察候市の附近岩石より成る小丘有之、宅より二時間程にて登山眺望を逞し得られ日曜日の散歩には好適に御座候暮春雪消け新緑の頃ともなば眞に風情の名狀すべからざるもの可有之と樂しみ居候。渡來以來始めて心氣の鎮靜を覺え申候。

法科教授は若手多く候、名譽教授はタフト、ロオジヤス、等の外多くは單に備はるのみ、ハアパードの如くパウランド、ビーチ、ウキリストン等の大家なく、シカゴのメツチエム、ノオス、ウエスターンのウキグモア、コロムビアのマノロオ、スミスの如き先輩はこれなく候へ共、教授振りは免も角着實懇切の様に受けられ候。就中師弟間の親密なるは頗る目立ち候。學生は盛に教授室へ陣取り討論すれば、戯談も申し、實に兄弟も及ばず候。從て教室にても師弟といふよりは家族團圓的にして、或る若教授の如きはテーブルへ腰打かけて講義をすれば學生は頗る杖ついて質問いたし居候、而かも別段禮義を案するやうの感はなく、却て親密の感を深く致候。ストライキなど彼等の腦中には絶對に不可通の行動たるべく候。健康至極に御座候。

學生の氣風は一般に天真爛漫の一言に盡し申候。法律科の學生はガラザエイト、スチューデント多きに不拘、却々の惡戯もに御座候、教室にて前列の者の後頭に鐵拳を見舞ひ、耳を引張る位は居常茶飯事にして、此頃雪玉の投合流行し、教室(時間外)にて盛に之をやり居候處翌日は頭大統領ウオシントンの懸額の硝子を打壊しあるを見受け候。ライブラリー(法科)にて椅子を曳外づして人をヒツクリ返して喝采するなど全く始末におへず但、胸白に不拘、勉強は随分致し候、下調べ等怠るもの殆ど無く、當てられて頭極くものは未だ一人も見受けず候、これは米人の仕事根性に基く美德には相違なけれども、一方胸白と對照するに及び一種の興味を覺え候。我校も昔はこの天真爛漫ありしが、今果して之れあるや否や。各位の御判斷に一任いたし置候。

大分長談義に及び候が、今一言申上度は、當校の食堂の偉大に候。これはグレイグ紀念館の左翼を占領し、實に一千人の會食者を容れ候。毎週水、金の晩は音樂の吹奏もあり。食費一週三弗五十仙、スー

プ、ミルク、ブレッド、カファイ、バターは食ひ次第飲み次第。但し肉などの皿物は特別支拂の事と相成居候由。處が此大食堂へ許嫁の娘又は細君など携帯し來る者少なからず、他の學生は罔焼諸請半分、皿をタ、キ口笛を吹き一しきり大騒ぎをなし。掲句の果はパン飛びクラツカー天井を打つ事と相成候或人の話に夫妻同列にて聽講する向きも有之候由少々遠慮のかと恐察仕候。このコムモン(會食堂)の設備は母校にも望ましく、さすれば學生は單に寢室だけを工面すれば、勉強は圖書館、食事はコムモンといふ便法あれば、割高の下宿に就く必要有之間敷と存候、この點は後日又論じ度候。

三月十二日

天野 學長殿 在エール 中村萬吉

●歸國便り……………教授・留學生

片上 伸氏

(上略) 舊當地も大戦中とは申す乍ら豫想以上に平穩にて街頭に於いても家庭に於いても戰爭的氣分は案外少なく、小生到着の當時は戰線の兵士や傷病兵や家族の救恤慰問の爲の寄附金募集が毎日のやうに行はれ、それに引續いてはリガ、ワルシャワより避難せる各種學生の書籍賣乃至食費に當つる爲めの寄附金募集なども行はれ候も近來はこの種の企ても一段落つきしものゝ極端にて候。但し大抵の音樂會(毎夜一つ二つは有之候)や講演會等の入場料純益は凡て前記の救恤の爲めにあてられ居り候而して劇場音樂會は大抵満員にて少し人氣ある役者の出る芝居オハラは切符を手に入ると容易ならず、定價の十倍位にもせり上げ、これをまた學生やその他の人が多く一手に買ひ占めて更にその倍額位に賣りつけ、學生は學資の助けとし、その他これを専門の商賈に致し居候ものも有之候、軍人社會の様子なども芝居へ參れば一寸見當が立つ位

に、芝居に多く軍人を見かけ申候。これ等のとは檢閱を恐れて詳しく申上され候。

當地氣候は案外に凌ぎ易く候。クリスマス以前一日だけ列氏氷點下二十六度に下り候も、これも一日中の數時間にて、極寒の時に十八度内外、左様の時は女學校小學校等は通學を差止め候も、吾々には左程苦しからず、綿入の外袴を着て厚い頭巾を被り厚い上靴を穿ちて歩行いたし候へば、餘温は適度に温みを保ち愉快に感じ候程に御座候。室内はネル一枚位にて十分に候へば、東京の冬よりは案外に凌ぎ易く、小生も東京にてはよく風邪にかゝり候も當地着後は一度も風邪にも罹らず至極壯健に御座候。この點は吳々御放念被下度候。

當國の文物は何分悉く生面の多く今迄は間接に英國人等の書物を通じて承知いたし居候とて、悉く最初より學ぶ考へにて彼は忙しく暮し居候。幸ひ段々知人も出來何々と各方面便宜を受居候。桂井死去に就て御弔詞を奉うし奉謝候。今少し天壽を保たば母校の爲めにも何程か御役に立ち候ものな残念に存申候。

先は右御禮かた／＼申上候。時分柄吳々御自愛祈上候。敬具

二月十五日

片上伸

田中唯一郎様

●瑞西便り：講師留學生・遊佐慶夫氏

拜啓時下嚴寒の禰特に御健祥の程祈上候、小生今般當地に轉學致候、當地大學には有名な民法學者オイゲン、フーバー氏など居られ候、小生は同教授の下に此冬期中信託法の研究をなすことに致候。

御承知の如く此國學界の狀勢は獨乙風にして殊に先年、法及商法に就ては世界最新の大法典を制定し其他諸般の文物至て嶄新に有之候。目下は交戰

各國より軍事上、政治上、商業上の策士入り亂れ自然其間に暗闘の絶えざるもの有之候。亦た戰爭の危難を避けて静養を試みる者、或は特に此地を選んて歐洲の大勢を通過せんとする萬學の士も多數に滯留致居候。四周皆な交戰の列強、深更或は砲聲をも聞かんばかりの感有之候。各國の新聞は日々多量に到來致居候。從て社會民意の大勢は獨乙側に左袒するもあれば佛側に左袒するものあると云ふ様に誠に錯雜たるものに有之候。政府は努めて中立の態度を持し此等の者の間に軋轢の生ずるを防止するに餘念無く候。例は芝居、活動寫眞音樂等の興行に於ても獨乙側のものを演じたる後には必ず佛側のものを演ず可きことを内命すると云ふ様に其他小學校の教育に干し新聞雜誌取締に干し、常に交戰各國に對する社會動靜の中立且つ公平ならんとを期畫せられ居候、先日此地の聯邦議會を傍聴致し候。陸軍治罪法の改正に就き一員は獨語にて賛成演説をなし他の一員は佛語にて之に反對演説をなし亦た他の一員は伊語にて質問演説をなすと云ふ様に場内には右三ヶ國語が競て使用せられ居候(勿論、右三ヶ國語は此國の常用語にして小生の研究しつゝある法律の條文なども右三ヶ國語にて書き分けられ居候)今假りに此國の狀勢の概要を告ぐる爲めに此國に於ける各國の勢力を分解するなれば政治、學術、軍事等は獨乙、財界、經濟界は佛國、商業界は伊太利の手に歸し右三勢力は此國存立の要素にして各抜く可らざるものと存候。

過般此國へ日本の特命全權公使の派遣あるやに風評せられ候も果して如何のものに候哉其事實ならんことを希候。近來此國に於ても日本の極東經營並に其發達等に干し言論の頗る著しきを感じ申候。當地にてはアル、ブンド、Der Bund と云ふ新聞が最も有勢にして、贊獨主義の立場から日本の對支政策等を屢惡評致居候只だ學術的の發達に於て將

來の光明を認め得る國なりとは認致居候

大正五年一月十一日

瑞西ベルン

遊佐 慶夫

(Länggasse 23, Bern, Switzerland)

田中先生机下

●紐育便り：校友・留學生・毛利宮彦氏

新年を異郷に迎へ、先生の御恩徳の一層新たるるを感ずると共に謹んで先生の御多祥と御一門の御繁榮とを奉祈上候。諸私事舊冬二十二日クリスマスに休暇を利し、ニューヨークに趣き申候。朝河先生には之より先きニュー、ハムプシャイアに御旅行相成候爲め懸け違ひ御面晤不仕候へ共前以て種々御配慮に預り候爲め彼地にては萬事都合に相運び満足仕居居を同先生の御宿處に得、日々エール大學圖書館に見學致し嘗て相談の間なる同館のレフエレンス、ライブラリアン、キーパー氏の特別に懇切なる指導に依り研究上頗る便宜と利益とを得、從つて愈々感激がき漸く大晦日の午前中を限り一先づ切り上げ早刻紐育に歸り、中村講師と共に新年を迎へ申候次第に御座候

此國の新年に關しては別段とりたて申述ぶる程の事も無之、たゞ大晦日の夜十二時を境に工場は汽笛を鳴らし、寺院は鐘をつき、町ではラッパをやたらに吹きたて、ブリキの罐をたきまわる等全く幻影破滅の陽氣極まるヤンキー式迎年に事新しく感じ候位に御座候而して日本なれば松の内なる正月三日より既にライブラリースタールの始まる等全く忙しき事に御座候但し御座を以て其後身體も壯健にて僅々アト半ヶ年の滯米時日の最も有効たるべく努力致居候間何卒御安慮被遊度候

候、萬事は歸朝の上御陳述申上ぐる事とし、唯茲に私として切に御配慮を仰ぎ度き儀は、此際我國圖書館として基本金の必須なるの一事に御座候圖書館として内容的改良は要するにレフエレンス、ライブラリーとしての進歩發展の意に外ならずして一方セミナリーと關聯し他方自由にして完全せるレフエレンスルームを公開する等圖書館其物の事業と活動とは益々特殊たるべく從つて是等事業と活動とに當然共なふべき財力に於ても學校施設上に特別な位置を要求するは自然の勢と存候即圖書館其物の立場よりして購入すべき特別の書籍費、圖書館のエキステンション、ワーク、館員の勤勉努力等を期待するに於ては茲に獨立にして自由なる財源を或る程度に圖書館其物に必要たるべく候現に當國大學圖書館にして、ける種類の基金を有せざるもの殆ど無之、エールの如き圖書館を始め各分科の基金を合すれば裕に百萬弗に上り候、此意味に於て今回の資金募集をして一層、る學問の繼續的活動の生命にまで普及せんことを切に希望するものに御座候依つて研究室設立費募集の附帶事業としてせめては廿萬圓も天下の裕福なる有志家より寄附得たきもの、様に存せられ候以上或は幼稚なる願望ならんも私の赤心として御配慮を煩はし度奉念上候

エール大學圖書館は現に一週二回、實習致し居る當市コロムビア大學圖書館に比し、規模に於て小にして設備に於て舊式に候へ共其藏書の價值と其事務の完美とは誠に驚嘆すべきもの有之候私も同館に於て前述の如き特別の好意に依りアシント、ホストン等次回の視察上に基礎的の便宜を得候と同時に、兼ねて同館の誇とせる事務一般、ビブラグラフィカル、コレクション、殊に最近特に力を注ぎ居る歐洲戰爭に關する圖書の蒐集に就き有益なる智識を得申候此上は一層の智識と利益との爲めに春季の視察旅行を期待仕り居候先は新

年の御祝詞傍右申度如此に御座候 謹言
大正五年元旦

市島謙吉先生 御榻下

毛利 宮彦

●紐育便り(其二)

校友留學生... 高橋清吾氏

拜啓仕候。

久敷御無沙汰仕り御申譯無之候。

少しく忙はしき候ため何等研究に關する御報告を
も致さず相濟まざる次第に御座候。小生は十二月

十六日にホームルームに關する報告を仕り候この

一月八日にはアリストートル、プレトリーの政治

學說に關するレポートを書き申候。こゝに御送附

申上ぐるはホーム、レルの分に御座候。政治學說

の分も近日中御送附仕る筈に候へば、御迷惑にて

も御高覧の上は圖書館に御預け置き被成下度御願

ひ申上候。つまらぬ研究に御座候へども、材料丈

けは精選致したるつもりに御座候へば、何の役

に立つ事も有之るやと存じ候。

試験はこの二十六日より初まり申候。

小生の受くる分は

1. The formation of American Constitution.

2. Political theory (Ancient, Medieval).

3. Administrative law.

4. Comparative Government.

5. Municipal Administration.

の五課目に御座候。時間少きため近頃は午前二時

頃ならでば就眠致さざる有様有之候。

この學期にてマスター、オブ、アーツに對するレク

ワイヤメントを終り四課目だけ餘り候に付、P.D.

の分へ廻す事に致候
マスターに對する論文はビード教授の御注意に
依り昨春レポートせるビュリタン、セオリーを更

に研究して Development of Democratic doctrine
During the Puritan Revolution と名づけ四十六頁
の論文二通を作りて學校へ差出し既に通過仕候。
御安心被成下度候。

次に

コロンビアの Prof. Muey 今回日本へ御旅行の
由に候間學校參觀の折りは、何卒よろしく御便宜御

計り被成下度御願申上候。先は右迄申上候。不
千九百十六年一月十九日

鹽澤先生 御机下

高橋 清吾

●米國便り(其四) 校友講師中村萬吉氏

拜復益々御多幸之段奉賀候 英文紹介狀正に落手御
手數之段奉謝候 六月始め早速之を利用いたしハ
アバード大學始め東部の大學を參觀致候(中略)

毛利君も六月初日圖書館學校終了に付 即刻紐育出

發各大學視察の上歸朝の途に就く由に候

小弟は五月末日まで當エール滞在、六月勿々ボス

トン市よりケムブリッジなるハーバードを觀、そ

れよりコネル、ハアトフオド兩大學を參觀の上、

六月中旬紐育へ趣き語學練習の上八月頃渡歐可仕

計畫に御座候

在米一年初め半年は研究上の方針立たず大に困難

致し候へ共後半年間は頗る有益に御座候べし、米國

法の研究法も大體會得仕候 同法は研究するに從て

興味出で歐洲大陸法の如く形が出来居らぬだけ却

て研究の面白味を感じ候 日米の商業千係其他今後

大に兩國間の交通密接と可相成候に付米國法の研

究は頗る必要の事と存被候 從來日本にては英米法

を併稱致居り候へ共兩國の法は必ずしも同一なら

ず、殊に米國法の中にも各州必ずしも同一なら

ず、決して概括的に英米法又は米國法など申すべ

ユーヨーク州法とは各州裁判例の模範となり居り、
前者は英國法の正統を傳ふるに反し、後者は日常
取引の實情を基本とし、前者がアングロサクソンの

の純真を代表すれば、後者はヤンキーの活動を代

表いたし兩々相對峙いたし居候、又ハーバード大

學法科にては兼れて大陸法を研究し、同大學教授

ウキリストン氏の如き(米國賣買法起草者)は現に

大陸法の長所を米國成文法へ採用致し居候 即ち米

國法は四十八州各多様なだけ比較研究の便宜を

得、將來大々發達の見込可有之と存候 早稻田に於

ても相當之が研究の方法を備へ度と考へ毛利君と

打合せ致置候、尤も米國法全般に亘るべき必要は

可無之候、比較的日本と千係多き部分、例へば動

産の賣買、流通證券法(手形類)、破産法、運送法等

は商事に關し尤も必要にして、早大商科の有志者

に對し特別研究の便宜を與ふれば將來利益多かる

べしと存候、又米國憲法(合衆國及各州)の如きは

政治科の特別研究として必要に候へし(是方面は

高橋清吾君へ一任)、唯米國法の研究には多數の判

例集を要し候間一寸費用の點に付閉口致候 四十八

州の判例集など到底及ぶべからず、マサチューセツ

ツ、ニューヨーク、イリノイ(市俄古中心)及キャリ

フォルニア(日本人關係)の四州及國際商業運送の事

項に付合衆國裁判所の判例集は最少限度に於て必

要に候、處がいづれも一州約二百冊位の判例集を

有し、價格日本金三百圓位は致すべく候間一寸以

上の各判例集を取揃へるだけに既に千圓以上の

費用を要し候この外、英米法百科全書、米國各州

判例要旨、各州成文法、英法辭書、訴訟用書類難

形等は是非必要に御座候 乃ち先づ三四千圓を投ず

れば一寸取揃へらるべく候、何とか便法を設け寄

附金を募集し米國法圖書館を備へ附け度と考へ居

國といふ點に及び會心の意見を交換いたし候 歸
朝の上は大に米法熱を普及し從來の大陸派へ一本
參る方針に御座候 裁判と常識、法理よりは實際と
いふ點が日本の法曹界には必要と存候、此點は米

國法を學びしものの風に感ずる所に御座候、遊佐

君先日紐育經由御歸朝の由面會せざりしは遺憾に

存候
皆様へ宜敷御傳へ願上候也
四月廿八日

中村 萬吉

田中理事 御中
前田幹事

●米國便り(其五) 校友猪俣津南雄氏

謹啓
先生には愈々御健勝の御事と奉存ます。非常に長

い間御無音に打過ぎまして誠に申譯次第もありま

せん。どうして此やうに早や月日が経つてしま

ふか自分にも合點が参りません、小生の出立に當

り、七年の月日を少しも長いとは思ひなかつたと

申された先生の御言葉が屢々思ひ出されます。

母校では研究室建設の御計畫もある様子、先生が

新居を卜されたのも近來の御多忙に處されての御

事と御察申上て居ります。母校の隆運、先生の御

多幸恐悦此事に奉存ます。

當方では學期が新たになり從て講義の如きも改ま

りました。以上要點を御報知申上ます。

前學期より引續いて開講のものは Prof. Dr. Land

Tenure 丈けでありまして此學期からは左の四科

目を之に加へて擇ることは致しました。

Commons, Labor History 3 cred.

Hibbard, Co-operation & Marketing

of Farm Products. 3 cred.

Fickelcher, Industrial Evolution. 2 cred.

Bruns, German. 4 cred.

即ち、イリイ教授のを加へて一週十四時間であり
ます。

選擇は大體テラー教授の意見に基いて居ります。
時間の組合せ上、Indust. Evol. をとるや、ス
コット教授の The Money Market をとるやにな
つたのですが、様々な人々を聴くことは耳を馴らすに
必要と思はれますから、前學期に聴いたスコットを
捨て、之れを擇るとにしました。二つには、Labor
History と連絡がとれてマルクスやビュローハ
ーと親むことが出来ると思つたからでもあります。獨
逸語を初めましたのは捨て、置いて忘れてしまふ
のを恐れたのと、それをやるのが、同時に英語の
稽古にも役立つと思つたからであります。四五回
出て見ますに實際其通りのやうであります。講義
は何れも相當に面白そうであり、まだ充分に聴
き取れぬので困ります。

次に、前學期中に讀むべき書物は僅であります。
即ち纏つたものでは、

Taylor's Principle.

Carver, Principle of Rural Econ.

此二冊は、テキストに用ひた

Warren Farm Management.

と共に精讀しました。其他 references として時々、
一二章づつ讀むやう要求された書物はいくつもあり
ますが、一々申上ません。Bulletin の類は、例へ
ば、

Farm Credit in Wisconsin

といふやうなものは、數篇讀まされて居ります。
イリイ教授の Property and Contract は要求された
數章だけで、まだ通讀の暇を得ませんでした。
何しろ萬事が落付かなかつた爲めに耽讀の境地を
作る譯に行かなかつたのであります。又、勿論、
every-day language の習得に迫られ居たからでも
あります。此學期も矢張り其方面を續ければなり
ません。個人教授もつゞけて居ります。

今學期の講義と共に讀むやうに指定されて居るも
のは、

Seligman, Economic Interpretation of History.

Blicher, Industrial Evolution.

Commons, Labor and Administration.

Trade Unionism and Labor Problem.

Hamilton, Current Econ. Problem.

Wolf, Co-operation in Agri.

Weld, Marketing of Farm Product.

等であります。

當地の嚴冬には初めての事として、大部閉口致しま
した。殊に今年には La Grippe が非常に流行しまし
て、小生も二回までやられました。此頃は稍、寒
氣がやほらいだやうであります。雪が降りま
す、偏に春の來るのを待つて居ります。

以上のやうな内容の手紙を三月の初めに差上げて
居た心算で居たのであります。三月と四月とは、
まるで日本へ便りをしなかつたので今日算へて見
ると、返事を書かねばならぬ手紙が三十二通ある
のを發見しました。同時に、右の先生へ上げる手
紙の下書きのやうなものが方々から來た手紙の中
に交つて發見されたのであります。愚案して見ま
すが、儘かに先生へは上げたやうでもあり、又、
下書きをして、安心して其儘にしてしまつたやう
でもあり、誠に申譯のない話であります。どう
も判きりしないのであります。で兎に角、今一度
書くことにしたのであります。

其後の二ヶ月は至極平調に進んで居ります。日常語
の進歩と共に、大層落付が出て來ました。小生が
シンミリと勉強するには是非共なくてはならない種
類の落付きが生れて來ました。之れを最も喜んで
居ります。

愈々春になりました。芝生が青み、トウリップが
咲き初め、盛に木の芽が吹いて居ります。春が來
たと思つて居れば、もう、夏休みまであと六週間

しかないと思しします。おかしな處だと思はざるを
得ません。母校の野球チームが來るといふことは
風の便りといふ風に聞いて居ましたが、數日
前當校の掲示で、六月の六日七日が試合の日割に
なつて居ることを知りました。小生は、野球には
縁遠い上に、マサソンの何處に何があるかといふ
やうなことにまだ一向注意を拂つて居ませんで
したので選手達も參つても何も出來ずまいが、
それでも矢張り非常に待ち受けて居ります。

六月七日

猪俣津南雄

鹽澤昌貞様

◎組育だより(其三)：校友・安井關治氏

拜啓母校益々發展の趣學報や新聞紙上にて傳
承仕り我等在組育校友一同祝杯を擧るゝと決して少
ならず候。殊に今同御大典記念事業として圖書
館並に研究科の大々的擴張をなさると相成候由
何より結構の事と存候。此等研究科又は圖書館の
増築に關しては幸にして毛利君が熱心に調査研究
せられ不日歸朝するとなれば、定めし最進式之設
備を有する建築物として其の内容の豊富なること共
に、又其外觀に於いても唯々に東洋第一たるべき
は信じて疑はざる處に候。現當地在留の校友の動
靜に就き一寸御通知申上度存じ候。當組育市の内
外に在留せる校友は約三十名計りに有之、校友會
の如きは少くとも一ケ年に三四回は開催致し其等
の會合に就いては、常任幹事たる小生より其都度
毎に御一報申上べき筈之處、事務多忙のためつひ
御無沙汰仕り居候。依つて今回之を一束と
して過去一ケ年間に於ける重立つ校友會並に校友
諸氏の動靜に就き御報道可申上候。昨年五月以降
本年四月迄に於ける校友會は中村萬吉講師の來遊

と第十五銀行留學生室孝吉氏のために歡迎會(五
月)吉田眞三教授の渡英並に毛利宮彦氏の來遊に
就き其送迎會(七月)高田學長の文相就任の祝賀祝
電を送り(九月)大阪朝日新聞組育特派員丸山幹
治氏及び名古屋森村組副支配人山田寅太郎氏の歸
朝に就き其送迎會(十一月)鹽澤男爵御來遊に就き
其歡迎會(十二月)牧華人(廣告術研究)上達三郎
(建築科研究)兩校友の來遊並に室氏の歸朝及び中
村講師のエル轉校のため其送迎會(本年二月)を
開催仕り候。此等の校友會には何れも十名乃至十
五六名の出席者有之殊に母校教授たりし家永豊
吉、濱岡五雄兩博士の在組せられて時々出席せら
れ校友一同樂しき會合を催すことに御座候。

早稲田大學の留學生として米諸大學に研究せられ
居る者は僅かに四五名位に過ぎざるは何となく肩
幅狭きを覺すえんばあらず殊に昨以來文部省留
學生の渡來するあり目下コロンビヤ大學のみにて
も約十四五名の留學生有之次第にて我等私學の代
表者としては其の數量に就いて到底官學派の連中
と比肩致し難く候。さりとて其實質に於いては決
して遅れを採らぬとは之れ又保證可仕候へば
何卒御安心被下度候。されば今度我が母校よりは
續々留學生を派遣せられんと冀望に堪へず候。若
し出來得べくんば組育市にも校友俱樂部の如きも
のを創立致し度き目論見にて目下小生等二三の校
友と一家庭を借り受け居候次第なれば、今後多數
の校友諸君が渡來せられて組育方面に活動を試み
んため何々の調査を必要となす場合あれば、御遠
慮なく御用命仰付けられ度年不及出來得る限り御
便利を計るべき心積に御座候。

母校の發展に對し聊か卑見を綴つて當屬者並に一
般校友諸君の御參考に供し度く存じ候。今回圖書
館並に研究科の擴張は勿論大々的擴張を意味する
ものに御座候へども、更らに廣き意味に於ける大
學教育の發展は時勢の進化と共に我が早稲田大學

が卒業してなさざるべからざるは、大學校外教育部の擴張と夏期學校開始の一事にして所謂大學擴張教育の根本的基礎を確立するに有之候。小弟は今茲に同擴張教育に關し、コロンビヤ大學の校外教育の盛況を御一報申上度存じ候。コロンビヤ大學は米國第一位の大學にして其の學生數に於いても亦其經費に於いても確かに無比の大學に御座候。先づ其學生數を見るに昨年度(一九一五年—一九一六年)に於いて、總數一萬六千四百四十四名に達し申候。元より此等總學生の内に夏期學校學生五千九百六十一名と大學校外教育部學生五千二百八十一名を合計せるものに有之、又此等學生中には二重の學籍を有するもの有之候へば實際の本科在學生は八千四百六十二名に有之候。然れども此等夏期學校制度は休暇を利用して教育機關の運轉を休止せしむるものとなく、若し此の夏期學校を利用すれば學生の方面から見ても四ヶ年度の大學修業年限を短縮し得る組織に有之候間身體の壯健なる學生は此の夏期學校を利用し、地方の小中學校教員達が休暇を利用して修學し、尙ほ學位を受ける特權を有する次第なれば少しく餘裕のある人々が入學するに寧ろ當然のものと存じ候。即ち四回の夏期學校を終了せば一ヶ年程度の修業と等しき結果を得る規定なれば、四ヶ年程度の大學教育も三ヶ年にして終了すべく、更らに大學卒業生に對しても矢張り研究科として夏期學校に修業して高等の學位を受ける次第に御座候へば地方から特志の學者が來遊する決して尠からず候。抑も此の「コロンビヤ大學夏期學校」の開始は今から十七年前のことにして當時の入學者は僅かに四百七十七名に過ぎざりしを、昨年度に於いては殆んど六千名に達し本年度は多分七千名に達すべしと想像せられ居候。隨つて教授の如きも各地方の大學教授を招聘し本年度は少くとも四百名の教授が教鞭を採らるゝ由に候。

次に御報道申上度きは大學校外教育制度に有之候、此の教育制度は御承知の如く大學教育の擴張又は發達を意味するものにして米國に於いては既に二三の大學は之を實施し、マサチューセツト州の如きは州費を以て大學校外教育を施しつゝ有之候。殊にコロンビヤ大學の校外教育は年々歳々新たらしき方面に膨脹しつゝ有之、本年度よりは組育市の下町に其出張教育部を設けて歐洲移民をして米國市民たらしむる資格を養成せんとする目的を以て所謂市民教育機關なるものを新設致し候。大學教育制度としては實に破天荒の事業と可稱候尙ほ本年度よりは新聞科の開放、醫學部に婦人の入學を許可するが如き一大特色たるを失はす候。此等の大學教育制度と其の活動振りは我が母國に於ける諸大學が學ぶべき長所も決して尠からぬ儀と存じ候。我が早稻田大學も近年に至り校外教育部なるもの設立せられ漸次膨脹發展せられ有之とは何れよりも結構のものと御座候へども、更らに秩序立つたる夏期學校と校外教育制度が完成せられんと希望致候。終りに臨み一言致し度候は大學の經費に有之候。コロンビヤ大學の如きは昨年度の豫算として四百八萬七千七百二弗を計算致し候。如斯巨額の大學經營費は米國第一位に在る同校としては敢て怪しむに足らずと雖も、其大部分が篤志家の寄附と校友の愛校心に依る資金に依つて其収入を計りつゝあるは何れより羨やましき事に御座候。四百餘萬弗と申せば日貨八百萬圓と相成べく、故國の諸大學の總經費を合計致しても尙ほ僅かに三百萬圓に達せざるに比較して如何にコロンビヤ大學の隆盛にして大規模のものたるや想像せらるべく候。我が母校の如き多少はコロンビヤ大學に學ぶべき點可有之儀と存じ候。經費を學生の授業料のみに依つて補はんとするには米國の如き授業料の高き大學に於いても(例へばコロンビヤ大學は一科目二十四弗、一ヶ年授業料として百

九十弗)到底收支相償はず組育大學の如き、例令へ學生の授業料總高五十萬弗に達し居るに拘はらず、本年度の缺損は既に四萬弗に達し居候。是れ小生が我が母校々友諸君に對し其熱心なる愛校心に依つて母校の隆盛と其發展とを計らん事を希望する所以に有之候。先は平素の御無首を謝し並せて母校の發展を祝し、且つ今回計畫されたる新事業の御成功あらん事を奉祈候。敬具
大正五年四月十四日

在コロンビヤ大學 安井 關治
理事田中唯一郎殿

●紐育便り(其四)講師留學生中村萬吉氏

(上略)當夏は渡歐準備の爲め紐育へ引返へし舊宅へ止宿いたし候。最近佛國よりの歸客に聞及候へば佛國も大したる騷擾なく研究敢て差支なき様申され候に付來八月中旬頃スイツルへ赴くべく候。依て差當ての旅費學費等必要と相成候に付八月上旬頃到達すべき方法にて六個月分學費御送附願上候多分佛國船にてボールドオ上陸巴里經由スウィツルへ入國の事と可相成英國は歸朝の際一寸見物する位に止め度候

毛利君は來十七日當地出發各地圖書館參觀の上歸朝の筈に付本日(六月十二日)校友會相開き送別の宴を張り申候。同君は過日來調査材料の蒐集集中に有之候歸朝後は定めて目を驚かす土産あるべしと存候圖書館設計なども當地専門家に付作成せしめ居候由從て格別の費用を要したるの己むを得ずと存候

去六月ハーパード見學の爲めボストンへ出校候往路はエアラインを取りハートフォードに下車カネチカツト州政廳、紀念圖書館、トリニチー大學(宗教)等を見物いたし、それよりスプリングフィールド及びウースターを経て夕刻ボストン市サウス、ステーションに着致し候、沿道一帶初夏の綠蔭

あり湖水あり、樹木の鬱蒼たる村落の相接する、流石にニューヨークランドは格別と感し入候。サウスステーションにて友人移川氏に迎へられ、ボストンの夜景を一見の上、サブウェイにてケンブリッジに向ひ申候サアはチャールス河に懸けたるカムブリッジ橋にて地上に出でボストン一帶の電燈河上に映するが見えてパノラマの如くに美麗に觀ぜられ候。

ハーパード大學寄宿舎の一なるデビニティ・ホールといふに幸ひ空室御座候間之にて宿泊する事といたし候。翌三日より五日正午まで同所滞在。ハーパード大學を限なく參觀。更にボストンの美術館。ハーパード・メザカル、カレツジ。シモンズ、ウキメンズ、カレツジなど見物いたし候。當地は米國第一の舊都市にて獨立戦争、南北戦争等に關する舊蹟は勿論、史蹟頗る豊富なる由に候へ共滞在日數を延長して見物するにも及ばざるべしと考へ、唯、ケンブリッジなるワシントン、エルム、ロングフエローの舊宅、紀念小園及ブラツク、スキスの舊蹟を一見したるに止め、レキシントン及びコンコルド。更にハプリモスなど稍遠く隔たりたる名所舊蹟の見物は一切割愛いたし候。

ハーパード大學の校庭は之をヤードといふ。米國各大學の校庭はキヤムパスといふに對して特例を見出すべく候。蓋しキヤムパスとは豫め設計を立て、校舎を配置したるより起れる名稱の由に候へ共ハーパードは元來インディヤンの教育の爲めジョン、ハーパード師の創めたるものにて校庭の如き豫定したるにあらず、校前の庭即ちヤードが漸時擴大して今日に至りしもの由。兎に角、米國最古の大學にして由緒あり。校舎は赤煉瓦のもの多く、唯二三大理石例へば醫科大學「コンクリート」(法科ランゲル、ホール)の例外あるのみ。而して校の内外の區劃は本部に於て鐵柵を繞らしたるも、他に尙多數の建物あり、是等は校と町内と無差別の混在せる事。尙ほエール大學の如くに

御座候。

一、ワイドナー圖書館 本部の中央に在り。最新式の大圖書館にして外面に他の校舎との色調上赤煉瓦に仕立て候へ共、内部は全部大理石造の贅澤のものに候。この圖書館はワイドナーといふ校友の母堂の單獨寄附に成れるものにて、ワイドナー氏は先年タイタニック號にて遭難したるより、その追善の爲め氏の遺藏珍書と共にこの圖書館をも寄贈せる旨、支那の兩側に刻銘しあり。閱覽室の外、最上層には多數の研究室を設けあり。米國大學中第一等の圖書館にて、容積は紐育パブリック、ライブラリーに匹敵すべきものと存候。

二、大學博物館 本部構内の外に在り。是亦宏大なるものにて、公衆の觀覽を許可いたし居り候。植物の標本中、グラスフラワーとて硝子製の草花のもの數百種あり、ドレンステンの名匠の手に成れる由、百花燦爛して温室の内に在る如し。礦石の標本も豊富なる真に可驚也と聞及び候へ共門外漢には判斷出來ず。更に人類學の方面に至ては、アメリカン印度人の主なるタイプに付豊富なる陳列を始め、人類の頭骨幾百をズラリ陳列しあるには只管呆れ申候、幸に移川氏人類學專攻學者なるを以て詳細説明を聽き大に利益致し。其他動物の部類も出品豊富に候。一見したる所、紐育の博物館に比して寧ろ内容の豊富なるを覺え候が果して如何にや。

折柄小學校の女生徒が四五十人參觀に來り候、實物教育上多大の利益可有之候。

三、法科大學 舊館ガースチン館、新館ラングデル館より成る。教室内の設備等は他と大差なしと雖、ラングデル館の圖書館には歐洲の洋書、ヨーロッパ及びエールよりは稍豊富のやう見受け候。歐洲法律書の蒐集はイリノイのノース、ウエスタン大學法科(ウキグモア教授學長として名あり)を第一とするものの如く、之に次ぐは恐らくハーパーと存候、米國にて歐洲大陸法を研究するには右二校を選ぶも可と存候。

四、寄宿舎 宏大なるはエール大學と大差なし。唯特筆すべきは新入學生專用の寄宿舎に候。是はフレッツシユメン、ドミトリイとてチャールス河の稍上手左岸に一廓數棟より成る。新入生は之に寄宿して校風の薰陶を受けるにあらずれば大學寄宿舎に入るの特權を有せざる由。米國の大學が如何に校風を重するを察すべく候。尤も紐育の大學、例へばコロムビアなどは未だ校風なるもの認められず、都會化してカレッツジスピリットの醸成には適せざるにやと存候。

其他、メモリアル、ホールにて教會に似たる高き建物あり、その一室が演藝場となり他が食堂となれるはエール大學ウイスキー、メモリアル、ホールと同一轍に御座候。エマーソン館の哲學講堂も一見いたし候。いづれも目下學年試驗最中にて親しく教授振りを見るを得ざりしは遺憾に御座候。ハーパー大學の空氣は如何にも溫雅暢達之感有之候。エールの古雅に偏しコロムビアの新奇に過ぎたるに對し、正々堂々大人の風有之候。殊に土地柄高燥にして俗塵に遠ざかるはシカゴ。ブリンストンと匹敵し、到底他に類例を見ざるべく、而かもチャールス河、ボストン市、其他郊外に消遣のシーンズ十分具はり申候へば、外人の留學には適當の大學と存候、唯本大學の入學手續の面倒なると學費の比較的不廉なるとは難物に御座候。

ハーパーの圖書館に關しては毛利君より詳細御話ある事と存候。

先は乍一寸近況御報告迄如斯 頓首
六月十日

田中唯一郎様
前田 多藏様
中村 萬吉
512, W. 134th St.
New York city.

●米國便り(其五)……校友 栗山 博氏

(前略)誠に今日は千載の一遇に處して政治も經濟も社會的設備も宗教の改善も新施設と改善の急を告ぐるものといへども學校教育が最も重要な地位を占め居る事は明かなる事實にして之れが改善に對しては已に官制が一部と雖も其改正を見るに至りしを賀し申す者に候へども官制問題に比して決して劣らざる恐るべき問題は即ち教授法の改善を要するものと存候小生御蔭を以て偏に學事に親しむを得感謝措く能はざる處に御座候幸に加州大學にあり今亦此地の大學に在り米國の極西と米國の東部との兩地の大學に親しく大學生活を嗜むとを得申候加州にありては帝大法科出身の人も農大出身の人も其他專門學校出身の人も等しく聽講するの機會を得日本に於ける教授法と米國に於ける教授法が如何に相違せるやを知るを得申候小生本大學に參りてよりは大學院の學生としては外國人は小生一人にして小生が本校の職格なる教授法と取扱の下に苦心を拂ひ足一歩郊外に出でし事なく二學期を経たる今日に於ては御蔭を以て米國の大學生少くも此大學にては果たして如何なる程度に教授の講義をのみ込み、之を應用し、教授は如何なる方針にて如何なる程度に講義し、如何なる指導をなしつゝあるやを親しく實驗するを得申候而して大學生の多くが一年生より四年生に到るの間其目的に應じて如何に科目を選擇するやといふ事も知り申候之れ實に學生にとりて重要な事たること知り申候優秀なる博士の講義によりて誠に有益なる研究を得候へども米國の學生にとりては數學が甚だしく困難を感じ尙此知識が一般に貧弱なるには何人も驚く處に候へども斯はハイスクリル時代に大方のハイスクリルの教員が數學の力缺乏し居りてそれが遠因となり學生が大學に來りて不自由を感じ大學を出でたる之等の卒業生がまた、ハイスクリルに教鞭を取るといふ如く循環

的に不結果を示したる事を承り同時に觀破致候誠に師の實力は子が母の乳に育てらるゝが如く體力孱弱なる母の乳に育てられたる小兒が可憐なる末路を見るが如く實に哀恐ろしく感じ申候米國は計算器が發達し居ればプロフェツシヨナリとして事務を取扱ふ事によりて何等の困難なしといはむも。日本にありては極要なる經濟政治其他の科目にありて斯かる様の事ありとせば之れ實に大なる問題たらざるべからずと存候

學生は學校に入るに困難し。學校に入るも師を求むるに窮すといふが如きあらば學生の悲慘事より甚だしきはなかるべく候國家が一に腕の力により軍人の力によりて一時を安眠し世界の文明即ち學藝の進歩に吾れ劣らじと豪語しながら事實は一步一歩劣り行き、一時、一時、相互に差異を生じ行く事と相成り可申候然るに母校が已に進んで教授法の改善を計られ居候由學報にて拜見し會心に存候

其後は御疎遠申居候も先生を拜想すること切にて新聞を見ても雜誌を見ても討論を聞くも講演を聞くも我等が愛する早稲田の學園は如何にしても其實實決して世界に誇れる一流の大學と比して真に劣らざるの内容と品位を添へしめむとに更に如何なる施設を要するやといふ事に就ては最も強き感情と注意とを拂ひ決して忘れざる覺悟に有之候米國を(餘談に相成候へども)視察する官吏記者、又は學者、實業家等にして誠に要領を得たる觀察を下す人士も有之候へども多くは其不徹底と獨斷的にして感情により支配されたる賑やかなれども手應へのなき。力のなき。批評をこゝろみられ居候を見ては何が故に此等有爲の士が一度外國に來つて誤りつゝあるやを怪しましめ申候思ふに國語を讀めても會話に通ぜず世情の些事に直感し。物を味ふ事が充分に至らざる故にて、また、豫め大體の歴史と(其方面の)國勢の一般概念を先入

家大算速の一本日
著新生先吉錠尾神

學界の待望拾五年にして愈々出でたり

神尾式速算法全

商科出身校友諸君は
此廣告を添へ
南北社に直接
注文にかざる

定價の二割引

菊判總クローズ綴
定價金壹圓
郵送料金八錢
東京市牛込區
南北社發行
振替東京一九四番

し置かざるが故に歸する事と被存候、國語が讀めたりと申しても専門の書を讀破するに易々と雖も新聞を讀むに困難なる學者あるを知り申候。之は。當り前の事にて英語の普通の讀みの又は會話にはジョークが多くイデオラムが多く用ゐられ居候故世態人情のゆき處に手の届く迄には相當に親しく米國の實生活に没頭したる上なられば殊更らに此れが研究と注意を拂へたる人の外には六ヶしき注文たるべく候

居候間御安心被下度候此地に参り候てよりは已に米國の經濟力の大勢丈は相當に詳しく數字を知るを得申候追て順序を逐うて目的に進み可申候規則的生活が加州にありて百九十パウンドの體量が今日は百六十パウンドに減じたるは制規の運動によりて減したるものにて病因にあらざるを何卒御安神被下度候
去る五月十五日より夏季講習に出席致し候目下獨逸語にて最も多くの豫定時間をとられ居候日本語にて獨逸語を學ぶよりも英語にて獨逸語を學ぶ事が幾多の便宜を加へ居る事を知り申候
先生の御健康を祈り御無沙汰を謝し申上候亂筆不文何卒御宥被下度奉願候 頓首

七月四日米國獨立祭に當り

田中唯一郎様貴下

栗山 博

本號『通信』記事時後れの憾みなる者は、記事輻輳の爲め是まで掲載の機を得ざりし故と讀者及び執筆諸君の諒恕を請ふ。

大正五年九月十日印刷
大正五年九月十日發行

編輯兼發行人 東京市牛込區矢來町四番地 田中唯一郎

印刷者 東京市牛込區榎町七番地 渡邊八太郎

印刷所 東京市牛込區榎町七番地 日清印刷株式會社

發行所 府下豐多摩郡戸塚町字下戸塚六百四十七番地 早稻田大學 早稻田大學校友會

早稻田大學 學生募集

高等學部		專門部		高等師範部	
政治經濟學科	法學科 (獨法、英法)	文學科 (哲學、英文學、史學及社會學)	商科	理工科 (機械、電氣、採礦、建築、應用化學)	政治經濟科
大學部	三ヶ年	高等豫科 一ヶ年半	(四期に分)	理科	三ヶ年
				第一學期	第一學期
				英語	國語漢文科
				數學	理科
				理化學科	三ヶ年

專門部各科第一學年

中學程度諸校卒業生は九月中無試験、その他は九月二十日(水)午前八時入學試験(中學校卒業程度)

高等師範部各科第一學年

九月二十日(水)午前八時 編入試験(第一部豫科修了程度又は第二部第一學年第一學期修了程度)

高等豫科各部第二期

九月二十日(水)午前八時 編入試験(高等豫科各部第一期修了程度) 願書は總て試験前日限り。詳細は本大學各教科事務所宛照會のこと、規則書は郵券三錢封入請求のこと。

大正五年九月十日(毎月一回十日發行)

大隈侯、東郷元帥、乃木大將其他諸名士序文題字
福本日南、横山健堂評論

●葉隱 (全集)

正價金貳圓 豫約特價金壹圓五拾錢
豫約期日八月末日限 九月中配本豫定

大隈侯は如何にして今日の偉大を爲せし乎、此疑問は去七月五日早稻田大學得業式に於ける大隈總長の訓示演說中に説明せられて居る。

私は佐賀の田舎武士である、佐賀には武士道の經典がある、夫れは葉隱集又は佐賀論語と云ふものであるが之れに人間の一生を支配する事が書いてある、之を私は小供の時に教込まれたので三つ子の魂百迄と云つて、其心が何時迄も働いて、如何なる事に觸れても少しも恐れない(中略)近々此書出版する積りだから夫れをよく御覽なさい(早稻田學報七月號意見欄参照)

横山健堂學士は大隈侯を以て「葉隱の權化なり」と云て居る。

先年此書の一部を抄録して第一版第二版を發行したが其全部は祕密として曾て印行せられた事がない、今回大隈侯爵指導の下に完全なる葉隱全集を提供する事に致しました。

東京市四谷區左門町六十八
中村常一郎方

葉隱紀念出版會

謹告

齒科醫 古賀光太

牛込區榎町十八番地
俗稱 火の見横丁

自分儀 這般早稻田大學校醫囑託相成
候に付此段校友各位に稟告仕候也

追て校友各位並に在學生諸君の御便宜を計
り特に實費診療に従事致候